

報告書

【Pharmacy Profession Awareness Campaign】

公衆衛生委員会 大阪薬科大学 6年 小路 晃平

| | |
|----------------|--|
| 企画名 | Pharmacy Profession Awareness Campaign |
| 日時 | 2014/4/12 09:00-21:00 |
| 場所 | 難波駅前 |
| 参加人数 | 薬学生スタッフ:12名/参加した児童:20名 |
| 目的・背景 | <ul style="list-style-type: none"> ・子供達に薬の正しい使い方を学んでもらい、薬剤師の職業について知ってもらうこと ・血圧測定ブースで健康意識向上&薬剤師について知ってもらうこと |
| 概要・内容 | <p>今回のPPACは、大人用の健康促進ブースと子供向けの薬剤師体験ブースの2つを用意しました。</p> <p>■PPACブース(薬剤師体験ブース)</p> <p>・薬剤師の体験を通して、医薬品適正使用について学びました。・項目は、アンケート・紙芝居・模擬調剤・薬効測定があります。・アンケートはクイズのようになっており、前後で取る事で理解度を確認しています。・紙芝居は未就学児用、小学生低学年用・高学年用があり、薬剤師の職業や薬の適正使用について学ぶ事が出来ます。・模擬調剤は、ビー玉やおはじきを薬に見立てて、処方箋に描かれた三種類の絵と同じ薬をガチャポンのカプセルにとり、患者の病気を具現化した病気の模型と同じ重さに成るように調剤します。・薬効測定では、天秤を用い、片方に病気の模型、片方に薬をおきます。薬が少ないと効果不良、薬が多すぎると副作用がでることを遊びながら学ぶことができます。</p> <p>■PPACブース(健康促進ブース)</p> <p>・血圧測定&肌年齢チェックを行い、健康意識を向上する。項目は、アンケート・紙芝居・自動血圧測定器による血圧測定・任意で学生による手動血圧測定しました。・アンケートでは、血圧や薬剤師に関する意識調査を行いました。・紙芝居では、血圧のしくみ・血圧に関すること・薬剤師について行いました。・テルモの自動血圧測定器を貸し出し、血圧を測定してもらいました。・学生の勉強のためと説明をした上で、任意で聴診器を使用した手動の血圧測定をさせてもらいました。・血圧に関しての診断やアドバイスは行わないものとなりました。</p> <p>■交流会</p> <p>今回は、未就学児の紙芝居において、エプロンによる動く紙芝居を導入しました。エプロン紙芝居は、大阪薬科大学2年の馬宿真実さんが製作しました。</p> <p>天秤、イラスト、紙芝居は日本薬学生連盟のHPのPPACページにて公開してあります。</p> <p>09:00～ 準備 10:00～ PPAC開始 12:00～ 昼食 13:00～ PPAC 16:00 終了 16:30～ 反省会 19:00～ 交流会 21:00 終了</p> |
| 担当者 | |
| まとめ | 0さん(大阪):参加してよかった点は、意欲を持った薬学生、一般の方、様々な年代の人たちとはなせる機械が出来た事です。 |
| ①結論 | 薬学生でも出来る事が沢山あるのだなと思いました。 |
| ②アンケート結果、参加者の声 | Yさん(愛知):PPACも素敵なイベントやけど、ママ達のイベントもめっちゃ素敵やなと思いました。(PPACは、マルシェドマンというお母さん方が作る市場のブースの一面をお借りして開催しています)東海でも今回のPPACを活かして改良してやっていけるように頑張ります! |
| ③開催して学んだこと | Nさん(東京):幼稚園、小学生に対してお薬はどうして言われた通りに飲まないといけないのかな?というのをゲームや紙芝居を通して伝えたり、大人の人に対しては血圧を自由に測っていただけたりするスペースを作り、日頃から血圧を測る事の大切さを知ってもらいました。まだまだ私自信が知らないといけない事が沢山あると実感させられると同時に、子供達の元気を沢山貰えたように感じました。今回のイベントは、色々な土地から薬学生が参加して一緒にイベントを行ったので、本当に凄いなと思いました。これこそ、日本薬学生連盟の魅力なのではないのでしょうか? |
| ④今後の展望 | Tさん(愛知):PPACに参加して良かったのは、様々な人にあまり知られていないけれど、とても大切なことを知ってもらえた事(薬剤師の仕事が知らなかった子供に知ってもらえた事、低血圧や高血圧の原因・その対策について知ってもらえた事)、沢山の笑顔が見られたこと(ブースを訪れた方から、よかったわ、ありがとう。と言葉を頂き、喜んでもらえた事)、地域の方々にとって興味のある分野が知れた事。人に話を聞いてもらうために必要なことがわかったこと(子供にはパペットなど興味がそそるものを使ったり、話にストーリー性があるようにしたりすること、大人では正確な情報など)、新しいつながりが増えた事(関西・関東のスタッフの方と知り合え、いろんな知識、それぞれの考えや視点が見られた事)です。とても楽しいイベントでした!本当に参加できて良かったです!Nさん(大阪):イベントに参加できて、とても嬉しかったです。地域の方や子供達、幅広い年齢層とコミュニケーションをとることが出来て良かったです!自分の中で新しい見方や発見がありました。反省会の時も、改善点のお話をしている時も、色々な案が出てきてとても良かったです。こうやったら次はもっと良くなるとか、皆さんと相談してより良いものを作り出すあの場が、本当に良かったです。ぜひ、今後も参加させていただきたいと思いました! |

報告書
【東海新歓】

地域連携委員会 委員長 金城学院大学 6年 山本 理香子
東海支部長 鈴鹿医療科学大学 5年 上田 真熙

| | |
|----------------|---|
| 企画名 | 東海新歓 |
| 日時 | 2014年4月26日(土) |
| 場所 | 薬学ゼミナール 名古屋教室 |
| 参加人数 | スタッフ:11人 参加者:36人 |
| 目的・背景 | 新歓を通じて、より多くの学生に日本薬学生連盟について知っていただき、今後の学生生活に活かして欲しいという思いで行いました。 |
| 概要・内容 | 13:00~13:50 挨拶、アイスブレイク(10分)薬連紹介、東海紹介 13:50~14:00 休憩 14:00~14:55 ブース 14:55~15:05 休憩 15:05~16:15 ワールド・カフェ 16:15~ 挨拶、写真 17:00 終了 17:30 完全撤収 |
| 担当者 | 地域委員会 委員長 金城学院大学 6学年 山本 理香子 東海支部長 鈴鹿医療科学大学 5学年 上田 真熙 |
| まとめ | 1年生に限らず、今年度もたくさんの薬学生が様々な意欲をもって参加してくれました。 |
| ①結論 | 会長からの挨拶から始まり、初めは少し緊張気味の雰囲気の中、アイスブレイクを行うとすぐに打ち解けられた様で、休憩中も笑顔で会話している姿が見られ、いい感じに緊張感がとれて良かったと思います。また、委員会紹介の際も、真剣に話を聞き、積極的に質問をするなどとてもいい雰囲気の中で |
| ②アンケート結果、参加者の声 | 行うことができました。 『医療従事者から見る健康とは?』というテーマで行ったワールド・カフェでは、学年問わず様々な意見が出て、真剣な表情で話し合いを行うことができました。 |
| ③開催して学んだこと | 【アンケート結果】 |
| ④今後の展望 | ・広報媒体:『先輩からの紹介』が一番多かった ・良かった企画:『ワールド・カフェ』 ・改善すべき企画:『委員会紹介』 ⇒『全部を回る時間があっても良かったと思う』『もっと時間が欲しい』とのことなので、来年度はタイムスケジュール等を検討すべき。 ・改善すべき企画:『団体紹介』 ⇒『みんなで仲良く! みたいな写真が多くて、自分達で行った活動を示した写真が少ない。議論をまとめたホワイトボードの前で写真を撮ったら何の活動をした団体なのか分からない』という意見があったので、今後、写真を撮る際や、団体紹介の際に使用する写真に注意した方がいいかもしれない。 ・今後のイベントの告知は、最低でも1か月前には始めましょう。 ・『製薬企業』や『MR』などの職業について興味がある人が多かったので、『医療』『薬剤師』という感じではない、研究職などのイベントをやっていききたい。 |

報告書

【実践！薬学生のための英会話イベント】

国際交流委員会 委員長 明治薬科大学 4年 西岡 明子

| | |
|----------------|---|
| 企画名 | 実践！薬学生のための英会話イベント |
| 日時 | 第一回目 4月27日 in 関東 / 第二回目 5月18日 in 関東 / 第三回目 5月25日 in 関西 |
| 場所 | 第一回目 明治薬科大学/第二回目 昭和薬科大学/第三回目 京都 |
| 参加人数 | 第一回目 20名 / 第二回目 25名 / 第三回目 8名 |
| 目的・背景 | <p>薬学生の中で、英語を話したいと思っているメンバー、薬学的なことを英語で勉強していきたいと思っているメンバーに対して企画しました。</p> <p>昨年度 APPS が日本で開催されたことで、海外の薬学生と話す機会を沢山持った学生がたくさんおり、英語を話す機会が欲しいという声がたくさんあったので企画しました。また、今年の夏に APPS・世界会議に参加される学生にとって、事前に英語を勉強しておく必要があるという声があがり、事前準備の一環としても開催を決めました。</p> <p>今年の夏に APPS・世界会議に参加される学生対象のミーティングを午後から企画されている日に行ったため、狙い通り APPS・世界会議参加のメンバーが非常に多く参加してくれました。</p> |
| 概要・内容 | <p>この英会話イベントは、大きく分けて二つのパートで行われました。</p> <p>①英会話 こちらのイベントは、日常的に使われる英会話や、実際に APPS・世界会議に参加された時を想定してディスカッションを行ったりして行きました。薬学生の英語力の幅はとて広いので、英語をあまり話したことのない初級者向けのプログラムと、英語をばんばん話していきたい上級者向けのコースを作ってイベントを行いました。</p> <p>②薬学英语 薬学生連盟の国際交流委員会として英会話イベントを行う一つの特徴的な企画として、薬学英语について触れる企画も行いました。薬学的な英単語をゲーム感覚で学んだり、日本薬学生連盟が行っている他のイベントの英訳を行ったりすることで様々な英語の単語を勉強して行きました。日本薬学生連盟のイベントの英訳では、英語を使う以前に、自分たちの活動について深く知ることが出来るように工夫しました。</p> |
| 担当者 | <p>第一回目 西岡・北村・高木・赤田・九石・千葉・赤川</p> <p>第二回目 西岡・北村・高木・赤田・九石・赤川・矢坂・小佐野</p> <p>第三回目 茅・競・福井</p> |
| まとめ | <p>【結論】 まだまだ英会話イベント自体のやり方は、確立されておらず、今年が来年に向けての叩き台になったのでは無いかと感じています。また、新しく入ってくれたスタッフにとっては初めてのイベント運営で、とても頑張ってくれたと感じています。</p> <p>昨年までの英会話イベントと違い、日本薬学生連盟のイベントの英訳を入れることで、日本薬学生連盟の国際交流委員会だからこそ行える英会話イベントに出来たと感じています。このパートは特に、世界会議・APPS 参加者さんから、現地に行った時に話が出来て良かったと言う声を聞いています。</p> <p>【開催して学んだこと】 薬学生の英語の幅が広いことで、イベントの内容を組み立てていくのが非常に難しかったです。スタッフには流暢に英語を話せる方が多いため、初めて英語に触れるメンバーに対してどのような内容の企画をすればいいのか一生懸命考えていたように感じます。</p> <p>また、英会話のパートは、始めてスタッフに挑戦するメンバーにとっても楽しく企画することが出来ていたので多くの委員会メンバーを巻き込んで企画をすることが出来たと感じています。</p> <p>【今後の展望】 現在は、関東中心ですが、来年度以降はこのイベントをパッケージ化して色々な地域で開催することが出来たら素敵だと思います。しかし、これを実現するためには、各地域に核になってくれるメンバーが必要だと考えています。</p> <p>来年度以降も今年度の英会話イベントを叩き台に企画をしていってほしいと願っています。</p> |
| ①結論 | |
| ②アンケート結果、参加者の声 | |
| ③開催して学んだこと | |
| ④今後の展望 | |

報告書
【PPAC“薬剤師認知向上&医薬品適正使用推進運動”】

公衆衛生委員会 大阪薬科大学 6年 小路 晃平

| | |
|----------------|---|
| 企画名 | PPAC“薬剤師認知向上&医薬品適正使用推進運動” |
| 日時 | 2014.5.10 |
| 場所 | ベルテラスいこま |
| 参加人数 | 9人 |
| 目的・背景 | 未就学児、小学生に薬剤師について知ってもらうため。 また、医薬品の適正使用を推進するため |
| 概要・内容 | 児童が薬剤師体験を通して、医薬品の適正使用を学ぶゲームを行うブース |
| 担当者 | 小路晃平, 三田愛, 馬宿真実 |
| まとめ | ①20名を超える児童に薬剤師体験及び医薬品適正使用を学んで貰えた。参加した学生スタッフも学ぶ事が出来た。 |
| ①結論 | |
| ②アンケート結果、参加者の声 | ②9:00から準備及び練習、説明を行った。10:00から開始し、ベテランスタッフが児童の相手をし、初参加者はそれを見て学んだ。12:00からランチタイムミーティングを行い、午前中に気づいた事、改善点を話し合った。13:00からは初参加者を中心に児童の相手を行った。17:00に終了し、振り返りを行った。 |
| ③開催して学んだこと | ③児童におけるアンケートでは、小学生において薬剤師の認知度は前後で12名の児童が向上した。お茶と一緒に飲んではいけないと前後で10名の児童の理解が向上した。参加した学生スタッフからは、年齢別の説明の難しさについてあがった。 |
| ④今後の展望 | ④初めての場所でも、ランチタイムミーティングは効果を発揮できる良い手法であった。初参加者の事前講習では、集まらない参加者もいるのでこのような手法を使った。今後も行っていきたい。 |

2014年6月28日

報告書
【がん予防学術大会見学】

学術委員会 帝京平成大 3年 大道 恒輝

| | |
|----------------|---|
| 企画名 | がん予防学術大会見学 |
| 日時 | 平成26年6月14日(土曜日) |
| 場所 | 国立がん研究センター築地キャンパス |
| 参加人数 | 10人 |
| 目的・背景 | 学会という場の雰囲気を知る。この学会見学を通して、今後の薬剤師の役割・使命を考え、今後の大学生活に活かす。 |
| 概要・内容 | 学会を身近に感じてもらうこと。また、学会を通して増加傾向にあるがんについて意識し将来の薬剤師像を考える助けをする。 |
| 担当者 | 大道恒輝 |
| まとめ | ①学会ではシンポジウムとポスター発表を見学した。 |
| ①結論 | シンポジウムは有用性のあるがん研究方法やがんの予防を国の政策として行った場合の有効性など面白い内容が多かった。ポスター発表では発表者と多くの内容を話すことが出来ていた。ポスター発表は学生でも行う方は多いため内容やポスターのレイアウト、話した方など参考になるものは多かったと思われる。 |
| ②経緯 | ②学会という場は教授などから一度は聞いたことがある言葉だと思う。だが、実際に行ったことのあるものはほんのわずかであり、5年生の卒業研究のときにはじめて学会に参加する方が大半である。学会に参加した5年生はおもしろかった、という感想を持つ者が多い。そのため今回の学会ツアーは低学年から学会という場を知ってもらい、大学生活に活かしてもらいたいという目的でこの企画を行った。 |
| ③アンケート結果、参加者の声 | ③参加者からは「いい刺激になった!」「授業で習った内容も出てきて、今の授業の大切さが分かった」「学生でも参加しやすい場だなと思った」など嬉しい感想をもらった。 |
| ④開催して学んだこと | ④今回参加した学会の内容、特にシンポジウムはかなり高度なものとなっていたため3.4年以上でないと内容の理解が困難のものであった。 |
| ④今後の展望 | 学会の選択は念入りに行わなければならない。 |

報告書
【実践！薬学生のための英会話イベント with Dora】

国際交流委員会 委員長 明治薬科大学 4年 西岡 明子

| | |
|----------------|--|
| 企画名 | 実践！薬学生のための英会話教室 with Dora |
| 日時 | 6月14日 |
| 場所 | 明治薬科大学 |
| 参加人数 | 20人 |
| 目的・背景 | 夏に APPS・世界会議があるメンバーが夏に向けて準備をしていくために開催しました。さらに、ただ英語の準備をするだけではなく、APPS・世界会議には日本薬学生連盟の代表として参加してもらうことを踏まえて、日本薬学生連盟が普段のような活動を行っているのを知ってもらい、さらにそれを英語で説明できるようにしていくために開催しました。 また、今回は日本薬学生連盟に招待されていた APRO の代表である Dora をこのイベントに招待して APRO のことや APPS のことを伝えてもらい、日本人参加者により一層 IPSF や APRO のことを分かってもらう目的もありました。 |
| 概要・内容 | ・英会話イベント Dora に自己紹介 日本薬学生連盟のイベント(PPAC)の紹介・英語で発表 Dora から英語勉強のアドバイス ・APRO について |
| 担当者 | 西岡明子 |
| まとめ | 【経緯】 日本薬学生連盟の一つの大きなイベントとして参加する APPS・世界会議をより充実したものにするためにも例年の事前準備に英会話イベントを加えて行うことに決めました。 |
| ①結論 | 海外に出る前に、日本薬学生連盟のイベントや活動を知ってもらうことで、実際に海外で日本のことを話せるようになってもらおう |
| ②経緯 | と思い、英会話イベントに日本薬学生連盟のイベントを英訳するものを加えました。 |
| ③アンケート結果、参加者の声 | 【結論】 今回の英語イベントは今まで自分達で予め決めていた英語でのディスカッションの内容とは違い、Dora との会話を通して英語を使うことができました。実際に外国の方を交えた英会話はとても充実していたと思いました。今後の英会話も工夫が必要だと感じました。 |
| ④開催して学んだこと | 日本薬学生連盟のイベントを紹介してから英訳してもらう部分では、実際に海外に行った時に役に立つなどの声が聞こえて良かったです。また、他の日本薬学生連盟のイベントに興味を持ってもらうきっかけになるイベントになりました。 |
| ④今後の展望 | 【アンケートの結果】 ・Dora が来てくれたことでより APRO のことが知れた。 ・Dora から教えてもらった英文が素敵だった、これから英語の勉強を頑張っていこうと思う。 ・PPAC のことを知れて良かった ・英語で説明する難しさを実感した。 etc. 【開催して学んだこと】 事前準備として予め日程を 2、3 月の時点で連絡していたことで参加人数が非常に多かった。 実際に外国の方が参加することで英会話イベントがさらに盛り上がった。PPAC のイベントをグループに分けて発表する際に、Dora に聞いてもらい評価を得ることができたので良かったです。 【今後の展望】 来年度以降も APRO の方を Contact Person を通して招待することが出来るということが分かりました。 英会話イベントは毎回外国の方をイベントに呼ぶことは難しいかもしれないけれど、海外の方と今後話していくことを意識した英会話イベントを開いていけたら良いと思っています。 日本薬学生連盟のイベントを英訳してもらいイベントに関しては他のイベントを知ってもらえると同時に、それを海外で紹介してもらえる利点がありますが、実際にどのようなイベントなのかを熟知している人から、そのイベントに対する説明が必要である。 |

2014年 9月 20日

報告書
【PPAC“薬剤師認知向上&医薬品適正使用推進運動”】

公衆衛生委員会 大阪薬科大学 6年 小路 晃平

| | |
|----------------|---|
| 企画名 | PPAC“薬剤師認知向上&医薬品適正使用推進運動” |
| 日時 | 2014,6,14 |
| 場所 | 難波中央広場 |
| 参加人数 | 13人 |
| 目的・背景 | 未就学児、小学生に薬剤師について知ってもらうため。 また、医薬品の適正使用を推進するため |
| 概要・内容 | 児童が薬剤師体験を通して、医薬品の適正使用を学ぶゲームを行うブース |
| 担当者 | 三田愛, 小路晃平 |
| まとめ | ①約 20名の児童に薬剤師体験及び医薬品適正使用を学んで貰えた。参加した学生スタッフも学ぶ事が出来た。 |
| ①結論 | |
| ②経緯 | ②9:00から準備及び練習、説明を行った。10:00から開始し、ベテランスタッフが児童の相手をし、初参加者はそれを見て学んだ。12:00からランチタイムミーティングを行い、午前中に気づいた事、改善点を話し合った。13:00からは初参加者を中心に児童の相手を行った。17:00に終了し、振り返りを行った。 |
| ③アンケート結果、参加者の声 | ③参加した学生スタッフから、天秤を薬効測定に使われる理由について児童から質問されて、上手く説明が出来なかったという件が報告された。天秤は、薬物血中濃度を示しているため、そのことを全スタッフに徹底したい。 |
| ④開催して学んだこと | ④小路は振り返りからの参加となり、三田が運営を指揮した。初参加者の数も多かったが、まわす事が出来た。これからは、経験者が初参加者に説明をして、また新たに開催するというサイクルを増やしたい。 |
| ④今後の展望 | |

2014年 6月 29日

報告書
【あなたの血の行方ツアー@仙台】

公衆衛生委員会 委員長 名古屋市立大学 5年 渡辺鮎美

| | |
|----------------|--|
| 企画名 | あなたの血の行方ツアー@仙台 |
| 日時 | 2014年6月29日 |
| 場所 | 日本赤十字社東北ブロック血液センター |
| 参加人数 | 16人 |
| 目的・背景 | <ul style="list-style-type: none"> ・何故、献血が必要なのかを理解するため ・20代から30代の献血率を上げるため ・献血についての理解を深めるため(医療者という視点からも) ・仙台の薬学生との交流を図るため |
| 概要・内容 | <p>13:30- 自己紹介</p> <p>13:35- 血液センター職員による講演</p> <p>13:50- 赤十字のこの1年の鑑賞</p> <p>14:50- ディスカッション</p> <p>15:50- 血液センターの見学</p> |
| 担当者 | 渡辺鮎美 |
| まとめ | 今回は、宮城県を拠点として献血活動を行っている宮城県青年赤十字奉仕団の方と一緒にイベントを立ち上げました。イベント内容としては、 |
| ①結論 | ①日本赤十字で献血された血の管理方法の説明 |
| ②経緯 | ②医療現場で、献血された血を用いて治療を行っていた医師の方のお話 |
| ③アンケート結果、参加者の声 | ③血液センターの見学 という3つの構成で進めました。 |
| ④開催して学んだこと | 医師の方からのお話の中で、献血された血が使われる白血病や癌などの病気にかかる患者の数は増える一方で献血する人は今では500万人に減少しているそうです。この500万という数字は昭和60年代と比べると約50%減少しており、献血者をいかに増やすかが非常に問題になってきています。その1つの原因として考えられるのが、一回きりで献血に協力するのをやめてしまう人が半数以上いるということです。参加者同士でいかに献血者を増やすか、そのアイデアを話し合った時には、以下のような案が出ました。 |
| ④今後の展望 | <ul style="list-style-type: none"> ・リピーターを増やすために、献血ルームで献血の理解を深めてもらえるような活動をする。 ・自分の周りの家族や友達にその大切さを伝える。 ・自分の周りの人に声をかけて一緒に献血をする。 ・まずは、自分が献血への理解を深め、献血を体験する。 ・SNSを利用して周りに呼びかける。 <p>積極的な話し合いをすることができ、またこのイベントが終わってからも参加者の方が献血に関わっていけるようなきっかけができて非常に意義のある時間を過ごすことが出来ました。</p> <p>また、血液センターの見学も、普段聞いて理解していた内容を実際に自分たちの目で見て理解することができました。献血センターから運ばれてきた血液にどのような処置を加えるのか、そしてどのように保管されているのか(温度や場所等)、普段見ることは出来ないような部分までじっくりと見学させていただくことができました。今回の学びを通じて献血を深く理解することができ、非常に良い機会となりました。</p> |

2014年 7月 6日

報告書

【献血推進運動 Vampire Campaign@東海】

公衆衛生委員会 委員長 名古屋市立大学 5年 渡辺鮎美

| | |
|-----------------|---|
| 企画名 | 献血推進運動 Vampire Campaign@東海 |
| 日時 | 2014年7月6日 |
| 場所 | 金山献血センター |
| 参加人数 | 16人 |
| 目的・背景 | <ul style="list-style-type: none"> ・何故、献血が必要なのかを理解するため ・20代から30代の献血率を上げるため ・献血についての理解を深めるため(医療従事者、患者の視点にたつて考える) |
| 概要・内容 | <p>9:45 受付開始</p> <p>10:00 日本赤十字の紹介</p> <p>10:05 日本薬学生連盟の紹介</p> <p>10:10 アイスプレイキング</p> <p>10:20 患者のご家族の方の講演・動画鑑賞</p> <p>10:50 医師の方への質問タイム</p> <p>11:20 ディスカッション&ランチョンセミナー</p> <p>13:00 午前の部終了</p> <p>14:00 呼び込み開始</p> <p>15:00 午後の部終了</p> |
| 担当者 | 渡辺鮎美 |
| まとめ | 今回のイベントでは、 |
| ① 結論 | ①日本赤十字で献血された血の管理方法の説明 |
| ② 経緯 | ②献血された血で治療を受けた患者の母親のお話 |
| ③ アンケート結果、参加者の声 | ③実際に医療現場で献血された血を使って治療を行っていた医師の方のお話をそれぞれ聞くことができました。 |
| ④ 開催して学んだこと | 学校でも血液製剤や献血についての勉強をしますが、現場で血液製剤に関わる人に会ったり話を聞いたりする機会が今までほとんどなかったため、今回イベントに参加した学生からは、献血に対するイメージが変わった、献血の大切さを本当の意味で理解することが出来た、これからは献血をしようと思った、周りの人に献血をするように呼びかけたいと思った、というような声がたくさんあがりました。お話の中でも特に小児癌を患った母親のお話が印象的で、献血される血を治療の間にどれだけ使ったのか、その治療を受けた時の息子の様子、医療者に対する想い等を具体的にお聞きすることができ、中には涙を流す学生もいました。今回のイベントを通じて一人にでも多くの人に献血の大切さを理解してもらうことができ大変嬉しく思います。 |
| ④ 今後の展望 | 今回のお話を聞いた学生からは、献血ルームで献血された方に献血の大切さを伝えたいという意見や、学園祭などの場所を通じて同じ世代の学生に献血の大切さを伝えたいという意見があがりました。この声を次回のイベントにつなげるとともに、様々な視点から献血推進運動を広めていきたいと思ひます。 |

報告書
【Welcome Party】

交換留学委員会 福岡大学 4年 福島 美里

| | |
|-------|---|
| 企画名 | Welcome Party |
| 日時 | 8月13日(水) |
| 場所 | 食洞空間 和楽 天神本店 |
| 参加人数 | 16人 |
| 目的・背景 | <p>【目的】 日本へ来たばかりの留学生と食事をしながらコミュニケーションをとり、親睦を深める。</p> <p>【背景】 数ある国の中で日本を選び訪れてくれた留学生に、居酒屋という日本独特の食事処の雰囲気と日本の料理を楽しんでもらいながら、SEPスタッフとの交流を楽しんでもらおうという気持ちで企画しました。</p> |
| 概要・内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・留学生、スタッフ自己紹介 ・食事をしながら自由に会話 |
| 担当者 | 中村恵里、福島美里 |
| まとめ | <p>【経緯】</p> <p>① 結論 留学生に九州・東海 SEP を楽しんでもらうため、まずは食事をしながらコミュニケーションをとり、心の距離を縮めようと考え</p> <p>② 経緯 Welcome party というかたちで、留学生とスタッフの交流の場を設けました。また、自由な雰囲気ですべての留学生にスタッフとの会話やコミュニケーションを楽しんでもらおうと考え、ゲーム等の特別なプログラムを組み立てることはしませんでした。</p> <p>③ アンケート結果、参加者の声</p> <p>④ 開催して学んだこと</p> <p>④ 今後の展望</p> |
| | <p>【結論】</p> <p>今回の Welcome Party は、ゲーム等を盛り込まなかったことから、会話中心のコミュニケーションの場となった。また、席替えは一度も行わなかったため、少数の留学生と多くの会話を楽しむことが出来たが、その反面全く会話をすることがなかった留学生とスタッフもいた。</p> <p>良かった点としては、参加日数が少なかったスタッフがその日だけでも留学生と多くの会話を楽しめた事があげられるが、改善すべき点としては、席替えを一度も行わなかったため交流の範囲が狭まってしまっていたため、一度だけでも席替えが必要だったのではないかと考える。</p> <p>【参加者の声】</p> <p>「留学生とたくさん会話が出来て楽しかった」 「留学生の母国の薬学生事情について知ることが出来て、日本の薬学生との違いに驚いた」 「自分の英会話力の低さを痛感した」 「もっと留学生との会話を楽しむために英語の勉強を頑張ろうと思った」 など</p> <p>【開催して学んだこと】</p> <p>イベントの本格的なプログラムが始まる前に、自由な交流の場を設けることで学生同士の心の距離がぐっと近くなることが感じられたため、そういった場の必要性や重要性を実感した。また、こういった場では、より多くの人同士が関わられるように、席替えや自由に席を移動できるような雰囲気作りも必要なのではないかと考えた。</p> <p>【今後の展望】</p> <p>今回の良かった点や改善点をスタッフ内で共有し、次回 SEP の Welcome Party に活かしたい。また、今回の会場は居酒屋であったが、どこか広い会場を借りて自分たちで会場づくりをしたり、ゲームを盛り込んだりするのも良いと思う。</p> |

報告書
【Welcome Party】

交換留学委員会 日本大学 4年 小川 千尋

| | |
|----------------|---|
| 企画名 | Welcome Party |
| 日時 | 8月13日 18時30分～21時30分 |
| 場所 | Co-med Café (東京都台東区 浅草橋 5-1-38 アイビー浅草橋 3F) |
| 参加人数 | 20人 |
| 目的・背景 | 留学生と夏休みを一緒に過ごしていくにあたって、友好関係を築くためと、合同企画者との顔合わせを兼ねるために、Party という形で各々が自由に話す機会を作った。 |
| 概要・内容 | 18:30 Welcome Party 受付開始 18:40～18:45 乾杯の挨拶 18:45～19:20 Free time 19:20～19:35 アイスブレiking(バースデライン&他自己紹介) 19:40～20:30 Free time 20:30～20:45 アイスブレiking(人間ビンゴ) 20:45～21:30 Free time 21:30 集合写真撮影 21:35～21:55 片づけ 22:00 撤収 |
| 担当者 | 小川千尋 |
| まとめ | 経緯: |
| ①結論 | 留学生との友好関係を築くために行ったパーティーであったので、参加者自由という形でなく、参加できる人を絞ることにより、留学生が人酔いや精神的疲労を軽減することを優先した。なので、パーティーは SEP のコアスタッフと合同企画者とホームステイ先の方が参加する形式として開催した。 |
| ②経緯 | |
| ③アンケート結果、参加者の声 | 結論: 参加者を絞ることにより、グループ化して固まって会話するのではなく、全員が満遍なく個人個人で会話をすることができ、パーティーの雰囲気は良好であったといえる。 |
| ④開催して学んだこと | またこれをきっかけに今後のメンバーとの隔たりや緊張というものを取り除くことが出来た。 |
| ④今後の展望 | 参加者の声: 留学生から⇒最初はちょっと緊張したが、このパーティーを通じてこれからの SEP に向けての期待が膨れた。 日本人から ・このパーティーのおかげでこれからの SEP に向けたモチベーションが上がった ・とても親しみやすい雰囲気であったので英語を話すことに抵抗が無くなった |
| | 開催して学んだこと: みんな各々に留学生と楽しく会話したり、スタッフで話したりする場面が見られ、後程「このパーティーのおかげでモチベーションが上がった」という声もあったので、全体の雰囲気としては成功したと言える。またアイスブレikingのバースデラインや他自己紹介を英語で行うことによって、英語を話すことに抵抗が無くなった、という声もあった。人間ビンゴは沢山の人と話すことが狙いであったので、特に制限時間を設けることなく行ったことは良かった、と個人的に思う。 留学生とスタッフが最初に触れ合う大切な時間だったので、この時間がみんなにとってのスタートラインだと考えると、このパーティーの重要性と意義を終わってみて更に深く考えるようになった。 |

報告書
【観光】

交換留学委員会 福岡大学 4年 大内田 奈々

| | |
|----------------|---|
| 企画名 | 観光 |
| 日時 | 8月14日(木)、8月18日(月) |
| 場所 | 8月14日(木) 太宰府エリア、8月18日(月) 天神・博多エリア |
| 参加人数 | 8月14日(木) 11人 8月18日(月) 9人 |
| 目的・背景 | 九州 SEP のプログラムの1つとして、観光・文化体験を通して留学生に日本文化への理解を深めてもらうために行いました。 |
| 概要・内容 | 8月14日(木) 太宰府エリア 太宰府天満宮、九州国立博物館見学 8月18日(月) 天神・博多エリア 東長寺、住吉神社見学 楽水園にてお抹茶体験 Open top bus 福岡きらめき夜景コース |
| 担当者 | 竹重文貴、平島沙希 |
| まとめ | 経緯： |
| ①結論 | 昨年の九州 SEP の観光プログラムでは観光がメインでしたが、今年はより充実したものとなるよう、体験型のものも加えました。また、8月20日の大学見学の際には、書道体験も行っています。 |
| ②経緯 | 今年8月18日開催の観光プログラムでは、一般参加者を募集しました。 |
| ③アンケート結果、参加者の声 | 結論： 福岡の歴史的な場所や博物館を観光したり、抹茶体験をしたりと、日本の歴史や文化について深く知ってもらえたと思います。 |
| ④開催して学んだこと | 英語でのコミュニケーションを通して日本について紹介し、逆に留学生からはそれぞれの国について教えてもらうことができ、お互いの国や文化について知る良い機会になったと思います。また、一般参加者にも九州 SEP の活動を知ってもらうことが出来ました |
| ④今後の展望 | 開催して学んだこと： 留学生とは英語でコミュニケーションを取りましたが、神社でのお祈りの仕方やおみくじの内容など説明が難しい部分もあり、どうい風に伝えると相手にとって分かり易いのかを考えながら説明することでとても勉強になりました。また、留学生から日本についてたくさんの質問をされましたが、自分自身が日本人として文化や歴史について知っておくことは、海外の人々と交流する上で大切なことだと実感しました。 今後の展望： 今年度から観光プログラムに体験型のものを加え、それが留学生に非常に喜んでくれたので次回の受け入れの際も行いたいと思います。また一般参加者の参加により、観光プログラムがより盛り上がったので次回も積極的に募集したいと思います。 |

報告書
【Sightseeing Day】

交換留学委員会 東邦大学 4年 小林 朱音

| | |
|----------------|---|
| 企画名 | Sightseeing Day |
| 日時 | 4日間(8/14, 8/16, 8/22, 8/31) |
| 場所 | 横浜(14日) 鎌倉(16日) 浜離宮、お台場(22日) 東京ディズニーシー(31日) |
| 参加人数 | 各日 10~20人程度 |
| 目的・背景 | 留学生に日本について知ってもらうため、また、日本人参加者との交流を深めてもらうため。 留学生同士の交流も兼ね、全員で出掛けるために計画しました。 |
| 概要・内容 | 半日、もしくは1日を使い東京や東京近郊の観光地をめぐりました。留学生の買い物のサポートや観光地の案内、歴史的な建造物等の説明を通して留学生との交流を深めました。 |
| 担当者 | 小林朱音 吉見悠 |
| まとめ | [経緯] |
| ①結論 | 留学生に、より充実した観光をし、日本という国を多方面から見てもらうために企画しました。また、日本人参加者に留学生と交流する機会を作るという目的もあります。 |
| ②経緯 | |
| ③アンケート結果、参加者の声 | [結論] 留学生はもちろん、日本人参加者も楽しむことができ、共に良い思い出を作ることが出来ました。英語を話す機会を持つことができ、さらにそれぞれの国の薬学事情についての情報交換も出来ました。また、観光を企画し留学生を案内する過程で、私達自身も日本の良さや観光地について知ることが出来ました。観光という場だからこそ、他国との違いが見えたり、また留学生と気軽に話したりできる環境は参加者にとってもとても良い時間だったように思います。観光という面からも日本の良さを留学生に伝えることが出来てとても満足しております。 |
| ④開催して学んだこと | |
| ④今後の展望 | [参加者の声] ・素敵な時間を過ごすことが出来ました。(日本人参加者) ・留学生と交流する中で、自分の英語力をさらに向上したいと思うようになり、良い刺激になりました。(日本人参加者) ・楽しい時間を日本人スタッフと過ごすことができ、感謝しています。(留学生) |
| | [学んだこと] 計画していた内容を変更し、臨機応変に対応する難しさを学びました。日本語だけの会話はその場をしらけさせてしまい、たとえ流暢でなくても英語での会話が大切であるということも知ることが出来ました。事前に交通機関や休憩が出来る店等を調べておいたので、スムーズに物事が進みました。今後も留学生も参加者も更に満足してもらえるような企画になるように精進していきたいと考えております。 |
| | [今後の展望] 今後は、留学生と日本人参加者がさらに密に関われるような観光を考えていけたら良いと思います。留学生に楽しんでもらうことを第一に考えて企画しましたが、日本人も一緒に楽しめることで、より一層良い観光になると思います。観光は気軽に参加でき、海外の薬学事情等について知る機会や自分の英会話力を知ることが出来るとても良い企画です。今後はより多くの日本人参加者にこの良さを知ってもらえるようにしていきたいです。 |

報告書
【病院見学】

交換留学委員会 福岡大学 4年生 中村 恵里

| | |
|----------------|--|
| 企画名 | 病院見学 |
| 日時 | 8月15日(金) |
| 場所 | 国立病院機構 九州医療センター |
| 参加人数 | 8人 |
| 目的・背景 | 留学生に日本の病院薬剤師の役割及び病院の仕組みを知ってもらうため。 |
| 概要・内容 | <p>1.今回対応して下さった薬剤師の先生から、見学先の国立病院機構 九州医療センターのパンフレットを使いつつ薬剤師の業務内容などの説明をしていただいた。</p> <p>2.病院内の見学。 調剤室や、処方箋を見せてもらった、また、一部病室も見学させていただいた。ヒヤリハットを記録しているものや、分包機なども見せていただいた。見学させていただいた場所ではその都度説明をしていただき、帰国子女の大学の先輩に通訳をしていただいた。</p> <p>3.一通り見学させていただいた後は 1.で説明をしていただいた部屋に戻り、留学生からの質問に薬剤師の先生に答えていただいた(積極的に質問していたので1時間程度要した。)</p> |
| 担当者 | 平野真梨 |
| まとめ | 経緯: |
| ①結論 | 日本薬学生連盟の大きなイベントの1つである九州でのSEPの一環として病院見学を行った。 |
| ②経緯 | |
| ③アンケート結果、参加者の声 | 結論: 去年のSEPでも同じ病院に見学していたため、見学先の病院を決めることに関してはとてもスムーズに行うことが出来た。また、同大学の先輩(連盟非会員)のところにいらしている帰国子女の方が、去年と同様にして今年も病院見学の際に留学生に通訳をしていただいたので、とても助かった。アンケートの結果、参加者の声: |
| ④開催して学んだこと | <ul style="list-style-type: none"> ・病院薬剤師のことや、病院内のことが詳しく知れて良かった。 ・通訳の方がいてくれたので、とても助かった。 ・担当の方が質問に丁寧に答えてくれて嬉しかった。 |
| ④今後の展望 | <p>開催して学んだこと: 九州のSEPでは去年に引き続き同じ病院を見学したが、見学先の病院が快く今年も受け入れてくださりスムーズに決定出来たため、とても助かった。 また、通訳をして下さった先輩が6年生だったため、来年以降の通訳をどうするかを考えなければならないと思った。</p> <p>今後の展望: 来年も今回と同じ病院を見学先としてお願いするのであれば、失礼のないように連絡をとっていかねばならないと考えた。 また、専門的な用語を使うとなるとなかなか難しいことかもしれないが、通訳の人だけに頼っていくのではなく私たちスタッフもある程度は留学生に伝えられるように英語力を付けた方が良いと思った。</p> |

2014年9月11日

報告書

【SEC×IRC 日本文化を楽しもう ～折り紙体験～】

国際交流委員会 明治薬科大学 3年 渋谷 華鈴
 交換留学委員会 東京薬科大学 3年 中山 さやか

| | |
|----------------|---|
| 企画名 | SEC×IRC 日本文化を楽しもう～折り紙体験～ |
| 日時 | 2014年8月18日 13:00～18:00 |
| 場所 | 新宿 賢者屋、御茶ノ水 折り紙会館 |
| 参加人数 | 24人 |
| 目的・背景 | 交換留学生に日本の文化に触れながら参加者との交流を楽しんでいただく |
| 概要・内容 | ①本文化紹介、折り紙講習、ミニゲーム ②折り紙会館見学 ③懇親会 |
| 担当者 | 渋谷 華鈴、中山 さやか |
| まとめ | 経緯:私達が外国の文化に興味を持つように留学生も日本文化に興味を持っていると思います。また日本人の参加者達は留学生と英語で楽しく会話したいと考えていると考えました。そこで、日本文化を体験しながら留学生と交流できる企画を考えました。 |
| ①結論 | |
| ②経緯 | |
| ③アンケート結果、参加者の声 | 結論:日本文化の発表ではスクリーンが思っていたよりも小さく、後ろの方にとって見えにくくなってしまいましたが、みんな真剣に聞いてくれました。親睦を深めるために行ったミニゲームでは、予想以上に盛り上がりみんなが楽しみ、積極的に英語を使って交流しようという姿勢も見られました。折り紙は目標の鶴の扇は少し難しかったかと思いますが、それぞれ自由にいろんな折り紙作品を作っていました。日本では子供だけでなく大人にも親しまれている折り紙は、留学生にも楽しんでもらえたようで良かったです。またこの企画を通じて再度日本人は日本の文化のすばらしさを認識することが出来たように思えます。国際交流を通じて世界のことを学ぶのと同時に日本のすばらしさについても学ぶことができ、たいへん良い企画となりました。 |
| ④開催して学んだこと | |
| ④今後の展望 | 参加者の声:言葉がうまく通じなくても、ジェスチャーや表情で楽しくコミュニケーション取れました。日本人でも日本文化についてよく知っているわけではないことを痛感しました。そして折り紙は意外と奥が深いものだということを知りました。 今後の展望:海外のことも知りながら、楽しく英会話をできる企画を目指してきたいです。 |

2014年9月21日

報告書
【世界の薬剤師の仕事】

薬学教育委員会 東京薬科大学 2年 北澤 裕矢
交換留学委員会 東京薬科大学 2年 中山 さやか

| | |
|----------------|---|
| 企画名 | 世界の薬剤師の仕事 |
| 日時 | 2014年8月19日 13:00~17:00 |
| 場所 | 新宿 賢者屋 |
| 参加人数 | 24人 |
| 目的・背景 | 世界の薬剤師の仕事において違いや共通点を見つけ、世界の薬剤師について理解を深める |
| 概要・内容 | <p>世界の薬剤師の仕事についての発表 5つのグループに分けて行う (留学生1人に対し日本人数名うちグループリーダー1人)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グループ内で病院での薬剤師の仕事について発表(5分×2) 2. 質問(25分) 3. グループ内で薬局での薬剤師の仕事について発表(5分×2) 4. 質問(25分) 5. 全体で発表(5分×5) 6. グループリーダーから日本語で説明(5分×5) 7. 休憩(15分) 8. ワールド・カフェ(15分×4) <p>発表に対しての質問+フリータイム</p> |
| 担当者 | 北澤 裕矢、中山 さやか |
| まとめ | 経緯: 今回のこの企画は、世界の薬剤師はどんな仕事をしているのかというシンプルな疑問を通して、海外の医療について学ぼうという考えから始まりました。 |
| ①結論 | |
| ②経緯 | |
| ③アンケート結果、参加者の声 | <p>結論: 留学生の発表の内容が少しずつ違い、いろんな観点から医療というものを見ることができた。グループごとに自分たちのオリジナルの形式で発表してもらったことで様々な発表の仕方を得ました。また、各グループでまとめ方や聞いたことなどが違うので、その後に新たに質問や気になることが出てきて、各国への理解を深めることが出来た。今回の留学生がアジアやヨーロッパなど多方面から SEP に参加して下さったことにより、この企画を通じて世界中の薬剤師について学ぶことが出来たのはとても大きな収穫です。またこの企画を通じて日本の薬剤師のすばらしさを再認識したり、逆にもっと成長できる可能性を見つけたりすることも出来ました。私自身がまだ低学年ということもあり、まだ知識の及ばない部分もありますが、これからの勉強を通じて日本の医療というものを再度見つめ直していきたいと考えております。</p> |
| ④開催して学んだこと | |
| ④今後の展望 | <p>参加者の声:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なかなか普段ではできない、調べただけでは分からないことまで知ることの出来る良い機会でした。来年もぜひ参加したいと思います。 ・世界の薬局、病院が日本とここまで違うのか! とたくさんの驚きを発見することができ、留学生とお話をする機会が多かったので、自分の英語力を上げることが出来た気がします ・世界の薬剤師の仕事をはじめ薬学教育や薬局とドラッグストアの違いなどについて知ることができ、とても充実した時間を過ごせました。 <p>今後の展望: みんなが同じように理解できるように、進め方やまとめ方、発表の仕方を工夫し、さらに世界の医療について相互に理解できるようにしていきたいです。</p> |

報告書
【薬局見学】

交換留学委員会 福岡大学 2年 竹重 文貴

| | |
|----------------|--|
| 企画名 | 薬局見学 |
| 日時 | 8月19日(火) |
| 場所 | 翔薬、タカラ薬局 |
| 参加人数 | 8人 |
| 目的・背景 | 留学生に日本の薬局の様子を知ってもらうために見学を企画しました。この見学を通して自国の制度との違いや薬の扱い方の違い、管理の仕方などを見てもらえればと考えました。今回はタカラ薬局のご好意で、翔薬の流通センターも見学させていただくことになりました。 |
| 概要・内容 | ・翔薬見学 ・タカラ薬局見学 |
| 担当者 | 平野真梨 |
| まとめ | 経緯: 留学生に日本の薬局を見学してもらい、それぞれの国の薬局との違いを知ってもらおうと企画しました。自国の制度や管理方法などとの違いを知ることで視野が広がることと思いますし、他国の医療制度がどのようになっているのか気になるかと思ひ企画しました。 |
| ①結論 | |
| ②経緯 | |
| ③アンケート結果、参加者の声 | 結論: 上記でも述べたのですが、タカラ薬局のご好意により翔薬へも見学に行くことができました。そこでは一旦製薬会社から集めた薬を各配送先に分け、病院や薬局などに配送する流通の現場を見学できました。薬を間違えて取らないためやスムーズに集めるための工夫を見ることが出来たので面白かったのではないかと思います。 |
| ④開催して学んだこと | 薬局見学では棚の薬の配置や劇薬の管理、間違えて取らないための工夫などを知ってもらい、他にも分封機を実際に使ってみるなどの体験も含めての充実した見学になったと思います。また薬局の方と話をしていく中で日本の保険制度にも触れ、国民の負担率や残りのお金の入り方など実際に薬剤師として働いている留学生が一人いたので、とても興味を持って議論していました。 |
| ④今後の展望 | アンケートの結果: ・自国との違いを比べることが出来て良かった。 ・向精神薬の管理の仕方が自分の国とは違った。 ・分封機に興味深かった・留学生の名前を入れてもらい、記念になった。 ・医療負担額の残りのお金が薬局に入ってくるのが3ヵ月後というのがいつまでも理解出来なかった。自国では半月に1回国からお金が入るのに、経営はどうやっているのか興味湧いた。 |
| | 開催して学んだこと: 留学生みんなが、病院見学の時もそうだったが、向精神薬の管理についてとても興味を持っていたので、外国では取り扱いが違うのだろうと思った。留学生だけでなく、私達もこんなにゆっくりと見学をさせてもらう機会はなかなかないので、知らないことや発見が多くとても楽しめた。今回は参加人数4人だったが、今後も参加者が増えるようなら薬局の広さからしても移動手段などを検討しなければならないと思った。 |
| | 今後の展望: 大きな失敗もなく、順調に見学をすることが出来た。留学生たちは自国と日本の違いをそれぞれ確認出来たと思うが、私達は彼らの国の薬局がどうなのかを詳しく話す機会がなかったので、見学の後に討論会のようなものを設けても良いのではないのかと思った。 関東関西に比べればまだまだスタッフの数は少ないが、来年からもこの活動を続けていけるようにしっかり頑張っていきたい。 |

報告書
【福岡大学での一日】

交換留学委員会 福岡大学 4年 平野 真梨

| | |
|----------------|--|
| 企画名 | 福岡大学での一日 |
| 日時 | 8月20日(水) |
| 場所 | 福岡大学 |
| 参加人数 | 10人 |
| 目的・背景 | <p>【目的】 留学生に日本の文化体験・薬学部の研究室を見学してもらい目的と、留学生による自国の医療についてのプレゼンテーションをしてもらう目的で企画しました。</p> <p>【背景】 日本の文化体験では別日に抹茶体験をしていたため、書道部の協力を得て日本ならではの書道の文化に触れてもらおうと考えました。また研究室見学では福岡大学薬学部の様子を留学生に知ってもらうために行き、プレゼンテーションでは、日本人にも留学生の国や医療システムについて知ってもらう機会を作ろうと企画しました。</p> |
| 概要・内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・書道体験 ・学食での昼食 ・生薬学研究室、臨床薬物治療学研究室、薬草園の見学 ・留学生によるプレゼンテーション |
| 担当者 | 平野真梨 |
| まとめ | <p>【経緯】 昨年度は、福岡大学では研究室見学のみ活動であったため、大学で一日を過ごしてもらうことで雰囲気を知ってもらおうと企画を練りました。またこの SEP を通して、留学生に日本の医療システムや薬学事情を知ってもらうだけでなく、日本人にも留学生の国や薬学について詳しく知ってもらうために、予めプレゼンテーションを準備してきてもらい発表の場を設けました。</p> |
| ①結論 | <p>【結論】 日本の文化体験では、書道部の部員を交えての書道体験を開催することができました。最終的には、留学生に色紙に文字を書いてもらって記念品として形に残すこともでき、とても喜んでもらえました。学食では、多くの人で賑わう中で食事をし、大学での日常を感じ取ってもらえたと思います。また研究室見学では、教授から研究室の説明を受けたほか、実際に行っている実験や器具について説明してもらったり、薬草園の中を歩きながら植物の説明を受けたりと充実したものになりました。留学生も質問をして興味津々だったので非常に良かったです。そしてプレゼンテーションでは、留学生の出身国や薬学部の制度、医療システムについてなど、様々なことを学ぶ良い機会になりました。昨年度の welcome party の時に行った反省点を踏まえて別日に設けたことは、とても良かったと思います。発表後に質疑応答を行うことで、意見交換ができ、有意義な時間を過ごすことが出来ました。</p> <p>【アンケートの結果、参加者の声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書道を通して留学生と交流が出来て良かった。 ・色紙に書いてもらったのは、留学生の記念として良かったと思う。 ・実際に行っている実験の説明は、特に留学生の興味をひいた。 ・生薬の器具は他国では見慣れないものが多かったようだ。 ・他国と日本の薬学部の制度や医療システムの違いに驚いた。 ・今までの交流で得た他国との違いについて整理することが出来た。 ・power point を用いての説明は分かりやすかった。 <p>【開催して学んだこと】 留学生は病院・薬局だけでなく、大学や研究室の様子にも非常に興味を持って日本を訪れていることを肌で感じ、この企画の重要性を改めて感じました。また通訳の方がいなかったのですが、スタッフだけでなく研究室の学生も英語を駆使して伝えようと努力してくださり、一般学生にとっても良い刺激になったように見受けられました。そして見学させていただいた研究室は、昨年とは異なるところをお願いしたのですが快く引き受けてください、日本薬学生連盟の活動をより多くの方に知っていただく良い機会にもなったと思います。</p> <p>【今後の展望】 大学の休業期間との兼ね合いにより、九州から東海への移動日前日の企画となりました。特に留学生によるプレゼンは日本と海外の違いを学ぶ良い機会となりましたが、SEP プログラムの最初に組んでいたら日本人スタッフもその知識を元に、日本のことをもっと発信できたのではないかと感じました。また、日本についてもプレゼンを行っていたらより留学生の理解も深まったのかもしれない。しかし、全体的には充実した濃いプログラム構成に仕上がっていたので良かったと思います。今後も改善しながら行っていきます。</p> |
| ②経緯 | |
| ③アンケート結果、参加者の声 | |
| ④開催して学んだこと | |
| ④今後の展望 | |

作成日 平成 26 年 9 月 15 日現在

報告書
【Share the Hot Topic in Your Voice】

学術委員会 北里大学 3 年 赤川 真理
交換留学委員会 東邦大学 1 年 斎藤 伶奈

| | |
|----------|--|
| 企画名 | Share the Hot Topic in Your Voice |
| 日時 | 2014 年 8 月 20 日 |
| 場所 | 北里大学 白金キャンパス 3 号館3階 3301 教室 |
| 参加人数 | 26 人(留学生・スタッフ含め) |
| 開催目的 | 日本や留学生の出身国のホットピックについて、インターネットで調べられる限界を実感し、調べた内容と現地の人が知っている情報の差を知る。 |
| 企画内容 | ホットピックの定義とは、その国で起きている、又は起きた医療時事の事であり、特にタイムリーである必要はない。(過去に起きた医療時事については、現在はどのように対処あるいは認識されているかに着目したい。) 留学生(5 人+日本人スタッフ)で 1 グループ→日本のホットピックを調べる日本人(3~4 人)で 5 グループ→留学生出身国のホットピックを調べる 調べる時間 50 分 日本語で調べて、不明な用語がある場合は海外サイトでの検索は不可とした。(同様に留学生は母国語又は英語で調べて日本語サイトでの検索を不可とした。)まとめる時間 70 分(延長時間 30 分) パワーポイントを用いてまとめた。翻訳の段階で電子辞書又は翻訳機能サイトの利用は可とした。(海外サイトからの引用は禁止した。) 発表時間 90 分(予定より 20 分延長) スライド作成は英語で行った。発表も英語を用いた。(日本人グループには他の参加者の理解度を高めるために日本語でも補足説明を入れてもらった。) 1 グループ 15 分計算(質疑応答含めて)で行ったが、当日の白熱した意見交換や質疑応答により、時間が多少押した。ある程度時間が押すことを考慮していたので、想定内で終わることが出来た。 |
| 当日スケジュール | 11:00(確定) 会場準備(企画メンバーとファシリテーター) 12:30 受付開始 13:00 【Opening】司会者自己紹介(1 分)+ 開催にあたってのご挨拶 13:02 留学生の名前紹介(司会が読み上げる。) 13:05~アイスブレイキングゲーム I (15 分)Passing the Chicken 13:20~KATARUTA (20 分)説明自己紹介含めて 13:50~【Share the Hot Topics in Your Voice】WSIについての説明 (10 分)開催目的 企画内容 やり方の説明 時間配分の説明 調べる国の割り振り ファシリテーターがいる事の説明 13:50~10分休憩(ネット環境の用意) 【活動開始】 14:00~調べる 50 分 14:50~まとめる 90 分(活動次第で短縮)⇒USB20 分 16:30~発表 110 分(15分×6グループ) →質疑応答での Give and Take でこのワークショップの目的が果たされると思うので時間はある程度とる 18:10~【Closing】(5 分) 北里大学の喜来先生と 2013 年度寶川千鶴さん 司会のメの言葉 18:15~記念撮影 18:25~会場片づけ(スタッフメインで) 18:30 終了 このスケジュールは、当日時間が押すことを考慮して終わりの時間を早めに設定して組んだもの。想定内でイベントを終了することができた。 |
| 感想 | 交換留学委員会 東邦大学 1 年 斎藤伶奈 企画から携わってみて、目的の重要性を学んだ。多くの事を決定していくのは大変であったが、目的が明確に設定されていたために軸からぶれることなく、内容を詰めることが出来た。それにより、企画内容を細部にまでこだわり、よりクオリティの高いものに仕上げることが出来た。納得のいく形で当日を迎えられ、留学生をはじめ参加者にも、とても満足してもらえたことが率直な喜びである。当日は司会進行という立場から関わってみて、予想以上に時間通りに進められないことを実感し、自分の統率力の無さを痛感した。定刻通りに終わらない事を前提として企画を詰めていたことで、当日の時間管理に甘さが出た。参加者と運営スタッフとの時間感覚を合わせる事で、参加者の疲れや集中力の欠如をカバーすることが出来たと思う。それによりタイムキーピングの必要性を再認識した。企画から反省まで困難な点が多々あったが、私にとってはすべて有意義な時間であった。学んだことを次に生かしていきたい。 |

報告書
**【Vage 活@名古屋
 一まるごと食べて、皆で healthy、夏一】**

公衆衛生委員会 委員長 名古屋市立大学 5年 渡辺 鮎美

| | |
|----------------|--|
| 企画名 | Vage 活@名古屋 一まるごと食べて、皆で healthy、夏一 |
| 日時 | 2014年8月23日 |
| 場所 | 生協生活文化会館 |
| 参加人数 | 17人 |
| 目的・背景 | <ul style="list-style-type: none"> ・予防医学として、食生活を見直すため ・野菜の効能、その組み合わせ方など、野菜に対する理解を深めるため ・食料廃棄について知ってもらうため ・家庭からの食料廃棄削減の実践的方法を知るため ・各国の食糧事情について知るため |
| 概要・内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・薬膳、食料廃棄についてのプレゼン(英語) ・薬膳料理の調理(5~6人で一組) ・各グループで、食料事情についてディスカッション |
| 担当者 | 渡辺鮎美 |
| まとめ | 現在の日本の食品廃棄は約180万トンにも及び、これは一人一食25g残すことにあたります。25gはだいたいお茶碗にご飯を少しよそった程度の量である。今回の薬膳ではいつもなら食べずに残してしまう食材の部分をうまく調理して食べることをふまえて薬膳を経験しました。薬膳とは、中医学に基づいて、それぞれの季節に合わせて春夏には体を涼しくし、水を補い気力を補うものを食べて、秋冬には体を温めて気血の流れを良くし、栄養を補うものをとることによって、常にバランスのとれた体の状態を維持するものです。今回は、自然界に逆らわずに、旬の食材を食べることを経験しました。 |
| ①結論 | 今ではがん患者が増えており、その原因として考えられていることとして、妊娠中にジャンクフード(スナック菓子、インスタントラーメン、ファストフード)やコンビニ食を食べることで、子供に影響を与えて癌リスクを上昇させていることが挙げられます。このような状況を改善するためにも、出来上がった食品でなく、緑、赤、黄、白、黒を用いた食材を調理して一日5食摂ると良いそうです。 |
| ②経緯 | 今回の薬膳での献立は、夏ということで、夏野菜のラタトゥイユ・サバのソテーを作り、夏野菜には、なす・ズッキーニ・トマト・パプリカと、夏が旬のサバを用いました。食材や調理方法には今まで知らなかったことがいくつかありました。例えば、 |
| ③アンケート結果、参加者の声 | ①なすは、葉をとる。とり方として、鉛筆の針をカッターで削るように、なすの葉もとる。 |
| ④開催して学んだこと | ②なすの葉を取った残りの部分が一番栄養がある。 |
| ④今後の展望 | ③魚を切ったまな板は、お湯で消毒する。 ④オリーブオイルは皮膚に良いので手についたら洗い流さずつけとく。 ⑤酸味が強い食材は体を冷やすので、辛いものを食べるとよい。 ⑥主食には米よりじゃがいもの方が無駄に太らなく、レンジだけなので調理しやすい。 ⑦冷たいものは体を温めようとして、内臓脂肪が付きやすい。 ⑧マッシュポテトにカロリーの高いマヨネーズを使わずにヨーグルトを用いた。 |
| | 出来上がって、実際にいただくと、それほど味付けをしていないのにも関わらず野菜の甘みがとても出ていたことに非常に驚きました。今回は大きすぎたり、傷がついていたり商品と異なる野菜を使用しましたが、こんなにも美味しい野菜をこのような理由で処分してしまうのは非常にもったいないことで、もっと食材を大切にすべきであると感じました。日本だけではなく世界でも食べ物を粗末にしているところがたくさんあり、それぞれの国で食材を大切に、貧しい国に食材を支給するなどして食材のあり方を今後考えていくべきだと思います。今私たちが出来ることは一つ一つの食材の調理方法を学び、食べられる部分はしっかりと食べ、少しでも食料廃棄物を減らすことであると考えます。 |

2014年 9月 22日

報告書
【夏の薬膳セミナー@関東】

公衆衛生委員会 委員長 名古屋市立大学 5年 渡辺 鮎美

| | |
|----------------|---|
| 企画名 | 夏の薬膳セミナー@関東 |
| 日時 | 2014年8月23日 |
| 場所 | 日本橋社会教育会館 |
| 参加人数 | 掲載なし |
| 目的・背景 | ・予防医学として、食生活を見直すため ・野菜の効能、その組み合わせ方など、野菜に対する理解を深めるため |
| 概要・内容 | 18:00 スタッフ集合 18:30 イベント開始 18:35 中医栄養薬膳学研究会様のご紹介 18:40 日本薬学生連盟の紹介 18:45 薬膳についての紹介 19:30 調理開始 21:30 イベント終了 22:00 完全撤収 |
| 担当者 | 渡辺鮎美、細川希織、中山さやか |
| まとめ | 今回の薬膳イベントは中医栄養学薬膳研究会の方を講師にお招きして、薬膳についてメニューを元に説明を受けた後に料理を作りました。講師の方は英語が達者であり、英語・日本語の両方で説明してくださったので、留学生も日本人参加者も分かり易く薬膳について学ぶことが出来ました。料理は秋の旬な食材を使って前菜からデザートまで一式作りました。レシピは分かり易く、食材の味を楽しめる料理になっていました。具体的なメニューとしては、 |
| ①結論 | * 鶏肉と山芋の粥、ニラ醤油のタレを添え |
| ②経緯 | ～肺を潤す食材の山芋を使って、失敗しないお粥の炊き方をします。 |
| ③アンケート結果、参加者の声 | * ぶどうの白和え ～豆腐の白和えには、皮膚を潤すゴマが豊富に含まれています。 |
| ④開催して学んだこと | * レンコンと梨のサラダ ～さつと茹で、スライスしたレンコンと梨のシンプルなサラダです。 |
| ④今後の展望 | * さんまのオイル煮 ～秋さんまをオイル、香り付けにローズマリー、ニンニクで煮ます。保存食にも。 * デザート～ココナッツプリンのかき添え ～ココナッツミルクには、解暑の作用があります。夏の余熱が残る残暑に向けたメニュー。 薬膳については学校では詳しく学ぶことが無いので、今回のイベントは楽しく学び、食事を堪能することが出来る、とても充実した機会になったと思います。今回参加して下さった講師の方々を始め、参加者やスタッフの方々に感謝申し上げます。 |

報告書

【1 回生交流会 FREEM (Freshman's Exchange Meeting)】

地域連携委員会 大阪薬科大学 1年 吉田 舞衣

| | |
|----------------|---|
| 企画名 | 1 回生交流会 FREEM (Freshman's Exchange Meeting) |
| 日時 | 2014年 8月 24日(日)12:30~17:00 ※17:00~19:00 懇親会 |
| 場所 | 大阪 Linclue Café 〒55-0011 大阪市西区阿波座1-2-10 |
| 参加人数 | 31人(内、スタッフ7人、オブザーバー3人) |
| 目的・背景 | ①1年生を主とした意見交換・交流の場の提供②学外活動に抵抗のある1年生の学外活動の足がかり、橋渡しを行う③他校生との交流を図り、人との繋がりの大切さ、面白さを実感してもらう④1年生同士が等身大の自分で、本音で語り合える場においてディスカッションやプレゼンを行う⑤自分が持っている知識のみを用いて物事を解決する能力を養う⑥専門知識に染まっていない今だからこそ語り合える夢やアイデア、考え方を積極的にアウトプットする⑦1年生同士が心から楽しめる企画を行う |
| 概要 | アイスブレイク(自己紹介ゲーム) ワークショップ1(100人の村) ワークショップ2(100年後の医療) 懇親会 |
| 担当者 | 大阪薬科大学 1年 吉田舞衣 |
| まとめ | きっかけは関西支部 MTG での一言だった。「1 回生同士の交流会がしたいです。」私のこの言葉を先輩方が後押しをしてくださり、また、私の意見に賛同してくれる仲間が出来たことで1 回生交流会を本格的に始動させることとなった。6月2日、私を含めてたった二人の電話会議から始まり、少しずつ仲間となるスタッフが増えた。幾重にもMTGを重ね8月24日の本番までの3ヶ月弱という短い期間を全力で駆け抜けた。1回生だけで行う企画作りは常に不安は付きまとった。何から始めれば良いのか、皆で意見を出し合い、時には先輩方にお話を伺う中で少しずつ形にしていっていった。一方で、同回生同士で行う企画作りは、皆が思い思いに自由に意見を述べる事ができ、またすべてを自分達の思うように企画する事が可能であり、非常に有意義なものとなった。各々の仕事をこなしていく中で、メールでのやり取りやディスカッションの仕方、データの処理、整理など今後にも必要になるであろうスキルが身に付いたことも大きい。FREEM 後のスタッフの反省会ではすべてのスタッフがこの会を通して成長することが出来たと実感していると述べていた。今回の会では、プレゼンテーションの際にパワーポイントを使用せず、Prezi というプレゼンテーションソフトの利用を試み、パワーポイントのように1枚1枚スライドを作成するのではなく、あらかじめ1枚の大きなキャンバスにすべての情報を書き込んでおき、そのキャンバス上で見せる場所を移動させる事によりプレゼンを行うソフトである。縦横無尽に動き回る様に心惹かれ採用に至った。当日はまず、アイスブレイクで自己紹介ゲームを行った。グループ内で円形に座り、自己紹介をする際に右隣に座る人のいいところ(笑顔が素敵など)を一つ述べた後、自分の名前を言う。そして、2番目に自己紹介をする人は1番目の人が述べた1番目の隣の人のいいところ、1番目の人の名前、1番目の人のいいところを述べた後、2番目の人が自分の名前を言う。これを最後の番まで続けていき一周させるゲームを行った。後半になるにつれ難しくなっていくが、グループ内で協力をしながらそれぞれのグループが自己紹介ゲームを終えた。その後、「100 人の村～医療のジレンマ～」というテーマでワークショップを行った。参加者は過去のある時代の 100 人の村へとタイムスリップする。この際にアイスブレイクとしてタイムスリップの方法を参加者に問いかけ、その方法でタイムスリップを行った。無事タイムスリップを終え到着した村では致死率 100%の伝染病が流行し村人は恐怖に怯えていた。そこに降りた参加者は村の救世主と崇められ伝染病対策のチームを結成、村人の一員として村の決まりごとや制度を作る事となる。まずは、村の名前が村に災厄をもたらしているという占い師のお告げにより、村長からチームに対し新しい村の名前を考えて欲しいとの依頼が来る。それぞれのチームが村の名前を決めた所で第一の情報が届く。この際にスライドで情報を提示すると同時に情報を印刷した紙を配布し、情報提供を行った。第一の情報では伝染病に対する大まかな情報を与えた。第二の情報では伝染病に効果のある薬草の詳細な情報が判明、第三の情報では伝染病に感染した感染者のリストの提示、最後、第四の情報では伝染病のより詳細な情報、また、村の風習や文化などの情報が判明した。それぞれの情報が開示された時点で10~20分のディスカッションを行ってもらい、伝染病対策の為の村の決まり事や対策などを書いてもらった。最終的に各々の村で模造紙に制度をまとめ発表してもらった。このワークショップは「質・公平性・継続性」という医療の三要素の中で自分の最優先順位は何かを気付いてもらうことを目的としたワークショップである。村の制度を発表後に、自分達が考えた制度はどれを重視したものだったか、また参加者自身は3つの内で何を優先するかを考えてもらい、グループ内でお互いの優先順位をフリップスピーチ形式で発表しあった。最後にオチとして参加者へ最後の情報が告げられる。その内容は新たな感染者がチームのメンバー、つまり参加者自身であるというものである。チームの中には年齢や将来性などから、感染者をこれ以上助けない制度も存在したが、自分が感染者となった時、自分が決めた制度に本当に納得が出来るのかを考えてもらいワークを終了した。エボラ出血熱が話題となった時期であり、エボラの実際の感染経路や感染地域の特徴を織り交ぜた内容も盛り込んだ。休憩をはさみ、二つ目のワークショップを「100 年後の医療」というテーマで行った。参加者に 100 年後の日本にタイムスリップしてもらい、そこで見聞きした未来の医療をポストイットに各々書き出してもらった。それらをグルーピングし、そのうえで未来の医療の利点・欠点をディスカッションしていく。未来から持ち帰りたい医療は何か、また現在研究が進んでいる医療の内未来で発展して欲しくない医療を挙げてもらった。転勤(席替え)を行った後、未来に残る現代の医療を考えてもらい、現代への報告書をグループごとに作成し、発表を行った。いずれのワークショップも参加者が非常に熱心に討論を行ってくれた。また同じ1回生とは思えない豊富な知識や、一方では既成概念にとらわれない独創的なアイデアが出され、ディスカッションの場が非常に活性化されたのを覚えている。1回生交流会は7つの目的を掲げ企画、運営、実行を行ったが当日の盛況からいずれの目的も達成されたように思う。1回生交流会は多くの方々のご支援のもと成功させる事が出来た。厳しい状況の中最後まで共に頑張ってきたスタッフの仲間達、いつも相談に乗っていただき、たくさんのアドバイスを下さった薬連の諸先輩方、企画に賛同して下さった地域連携委員会の皆さま、そして何より当日参加して会を盛り上げてくれた21人の参加者の皆様には感謝をしてもし尽くせない。この会を通して、本当に多くの事を学ぶ事が出来た。これからの薬連の活動の中で今回得た経験を還元していきたい。最後に FREEM に関わって下さったすべてのみなさまへ、ありがとうございました！ |
| ①結論 | |
| ②経緯 | |
| ③アンケート結果、参加者の声 | |
| ④開催して学んだこと | |
| ④今後の展望 | |

報告書
【Let's 京都】

地域連携委員会 委員長 金城学院大学 6年 山本 理香子
交換留学委員会 名古屋市立大学 3年 古澤 香菜

| | |
|----------------|--|
| 企画名 | Let's 京都 |
| 日時 | 2014年8月24,25日 |
| 場所 | 京都市内 |
| 参加人数 | 24日:18人 25日:8人 |
| 目的・背景 | <ul style="list-style-type: none"> ・東海に来ている交換留学生と一緒に京都観光をすることによって、気軽に国際交流をしてもらう。 ・関西では夏のSEPを行っていないので、関西の交換留学に興味がある人に留学生と交流する機会をつくる。 ・東海と関西の薬学生が交流してお互いの情報交換を行う。 |
| 概要・内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・京都駅に集合して観光をする。 ・清水寺、金閣寺、二年坂、ねねの道、八坂神社、京都タワー 等 |
| 担当者 | 地域委員会 委員長 金城学院大学 6学年 山本 理香子 岐阜薬科大学 6学年 長島柚依 |
| まとめ | 24日は、生憎の雨に見舞われ人数が多かったせいか、なかなかうまく観光としてスムーズに回ることが難しかったかなと思いましたが、SEP スタッフのみならず東海・京都からの一般参加者も募ることが出来たので、留学生との交流だけでなく地域間での会員の交流が出来たと思えました。また、留学生に気をかけるばかりでなく、それぞれが楽しんで参加してくれているように感じました。 |
| ①結論 | |
| ②経緯 | |
| ③アンケート結果、参加者の声 | 25日は、雨も降らず人数も多すぎず留学生も観光を楽しむことができ、参加者たちも留学生や会員と交流することが出来ました。留学生3人のうち、1人は耳が不調で予定どおりのバス(16:00 京都駅発)で名古屋に帰ってきましたが、他の2人はもう少し京都の観光をしたいということで時間を延ばして新幹線を使って名古屋に帰ってきました。 |
| ④開催して学んだこと | 留学生たちからは、京都観光も楽しかったし、新幹線も早く良かったとのこと、とても楽しんでくれたようで良かったです。また、Farewell Party の時に関西の参加者の人も来てくれていて、個人的にとっても嬉しく思いました。地域を越えて、国境を越えてたくさんの出会いがあったと思います。 |
| ④今後の展望 | |

2014年9月4日

報告書
【メディセオ見学】

交換留学委員会 名城大学 4年 原かをり

| | |
|----------------|--|
| 企画名 | メディセオ見学 |
| 日時 | 2014年8月26日(火)13:00~15:30 |
| 場所 | メディセオ名古屋 ALC |
| 参加人数 | 9名 |
| 目的・背景 | 日本の卸を見学することで、自国の医薬品供給の仕組みと比較を行ってもら。また、日本のシステムを理解してもら。 |
| 概要・内容 | 名古屋 ALC ができた経緯や、災害時の卸としての役割を学んだ後、工場内を見学した。自家発電装置や、ミスを減らすためにさまざまな工夫がされたシステムなど、工場のすみずみまで見学し、その中での薬剤師の役割を学んだ。 |
| 担当者 | 原かをり |
| まとめ | ①日本の卸の役割について、普段の業務から災害時の対応まで多くのことを学ぶことができ、留学生だけでなく、日本の薬学生にとっても有意義な見学となった。普段大学で学ぶことの少ない卸という立場がいかに大事であり、日本の薬局業界で重要な立場にいることを知ることが出来た。また海外での薬の流通制度や考え方に触れる機会はとても新鮮なものであり、学ぶものは非常に多かった。 |
| ①結論 | ②病院や薬局以外で、日本の薬剤師の関わる企業の見学をしたいと思い、担当者知人の薬剤師に相談したところ、メディセオの工場見学をすすめられ、今回の企画が実現した。 |
| ②経緯 | ③普段学校では、医薬品流通について知る機会があまりなかったもので、とても面白かった。(日本人参加者) |
| ③アンケート結果、参加者の声 | ④日本の医薬品供給の仕組みと、ヨーロッパやアメリカでは違いがあるが、日本は「正確さ」という点でとても優れていることが分かった。卸工場は、薬剤師として関わる人があまり多くないかもしれないが、その役割について学ぶことは将来の役にたつだろうと感じた。 |
| ④開催して学んだこと | 日本のSEPでの卸見学が初めてということだったが、これからはこういった機会をもっと増やせると良いと思う。薬局や病院とは違った点から日本の薬業界を見ることは日本人にとっても留学生にとっても非常に良い機会になると思う。 |
| ④今後の展望 | |

2014年 9月 14日

報告書
【薬局見学】

交換留学委員会 明治薬科大学3年 根本 菜奈香
交換留学委員会 明治薬科大学3年 芳村 梨奈

| | |
|----------------|--|
| 企画名 | 明治薬科大学附属薬局見学 |
| 日時 | 8月26日 |
| 場所 | 明治薬科大学附属薬局 |
| 参加人数 | 14人 |
| 目的・背景 | 留学生に日本の薬局について知ってもらうために開催しました。 また、日本人参加者には留学生と交流し、薬局のことを勉強してもらうという目的も含まれています。 |
| 概要・内容 | 明治薬科大学附属薬局の健康管理室、無菌製剤室、ハザード室などの見学をさせていただきました。 薬剤師の方がしてくださったことを留学生に英訳しました。 |
| 担当者 | 根本菜奈香 芳村梨奈 |
| まとめ | 経緯： 交換留学委員会の関東SEPで留学生に日本の医療をより知ってもらうために薬局見学を取り入れることを決めました。当日、自分達で留学生に説明するために事前に見学させてもらい、英語で説明が出来るように準備し当日を迎えました。 |
| ①結論 | |
| ②経緯 | |
| ③アンケート結果、参加者の声 | 結論： 薬局見学を通して、留学生に日本の薬局についてより深く知ってもらうことが出来ました。 日本人参加者にも薬局見学が初めてという人が多く、良い経験をしてもらえたと思います。 薬局という施設は世界で共通であり、だからこそ国によって違う点がはっきり見えたように思える。 |
| ④開催して学んだこと | 参加者の声： ・初めて薬局の中を見学出来てとても勉強になった ・地域薬局ならではのお話が聞けて良かった など留学生にも日本人参加者にも貴重な経験となったようです。 |
| ④今後の展望 | 開催して学んだこと： 英語で説明するために事前見学をしたことで薬局の知識が深まり、英語の勉強にもなりました。留学生に説明をしたことで、自分たちの英語力、知識不足を実感するとともに、直訳した英語だけではなく、わかりやすく伝えようとするのが大切だと気付きました。 見学をしながら日本との大きな違いを教えることが出来ました。海外では処方薬が箱のまま患者さんに渡されること、また薬の箱に点字があることも知ることが出来ました。 |
| | 今後の展望： 留学生と交流でき、薬局のことも学べるとも良い機会です。留学生も興味を持ち満足してもらえたので、次の受け入れでも薬局見学を取り入れていきたいです。 実習未経験だということと英語力不足で説明出来るのが限られてしまいうまく伝わらなかったことも多々あり悔しさも残りました。今回実習を終えた6年生に説明の補足をしていただけましたが、次回も経験を積んだ人に説明または補足をってもらう形が良いと思います。 |

報告書
【偽薬って何？】

交換留学委員会 名古屋市立大学 2年 加藤 恭崇

| | |
|----------------|--|
| 企画名 | 偽薬ってなに？ |
| 日時 | 8/27 13:00~4:00 |
| 場所 | 名古屋栄中日ビル B1 ガスト会議室 |
| 参加人数 | 13名 |
| 目的・背景 | 日本では身近ではない偽薬について、その特徴を学ぶとともに世界の偽薬事情を留学生と一緒に英語で考える |
| 概要・内容 | <p>パワーポイントを作成し、それに沿って進行</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 偽薬ってなに？ 2. どんなものがあるの？ 3. 偽薬の成分 4. 偽薬判別クイズ 5. 日本の偽薬事情 6. 世界の偽薬事情 7. 偽薬を買わないようにするにはどうしたらいいか「対策」 8. その対策をどう伝えるか「教育」 <p>(7, 8はグループディスカッション)</p> |
| 担当者 | <p>加藤恭崇 名古屋市立大学薬学部生命薬科学科2年</p> |
| まとめ | ①薬に関心を持ち、個人の日々の勉強が何より大切。 |
| ①結論 | インターネットを通して薬を購入しない。 |
| ②経緯 | 留学生と一般参加者との間で意思疎通が難しいところがあったが、全体的にリラックスした雰囲気で行った。言語の壁はあっても、心の壁は無かったように思う |
| ③アンケート結果、参加者の声 | 日本ではなかなか触れることの出来ない偽薬という物に触れることで改めて日本の医療の良さを知ることが出来た。 |
| ④開催して学んだこと | ②日本の卸制度についてそれが海外では一般ではないということから、その制度のおかげで日本は偽薬の流通が少ないとなり、日本では偽薬は一般的に問題ではないが、留学生が来てくれるので、生の話も交えて偽薬に対する理解を深めるきっかけになると考えた。 |
| ④今後の展望 | ③ためになった。また同じようなイベントがあったら呼んでほしいという声を頂けた。 ④偽薬について学ぶことで、その国の経済薬の流通規制を学ぶことが出来た。これは主に留学生からの話から学ぶことが出来た。他国の事情を知ることから今までの大学の授業等からは決して学ぶことの出来ないことを知れて満足している。偽薬に限らずもっとこういったことを学んでいきたい。SEPでももちろんだが、学生のうちから多方面での知識を身に付け、薬剤師として活かせるような企画を今後も企画し、もっと多くの人に触れてほしい。 今回は思ったように集客ができなかったが、今後また企画をする際にはその企画の魅力をもっと前面に出し、多くの人にこの楽しさを感じてもらえるようにしたい。 |

2014年 9月 20日

報告書
【SEP 研究室見学】

交換留学委員会 明治薬科大学 2年 角田 弥央

| | |
|----------------|---|
| 企画名 | 2014年 SEP 研究室見学 |
| 日時 | 2014年 8月 25,27日 |
| 場所 | 明治薬科大学 研究室 |
| 参加人数 | 25日 8名/ 27日 12名 |
| 目的・背景 | SEPにおいて、留学生が日本の研究室を見て、各国との相違点を確認することで、研究内容や先生方からの講義、また、研究で用いる機械などの理解を深めてもらう。また、日本人スタッフ、留学生が各国の研究室での相違点を英語により情報交換し、知識を増やす。今や研究には世界各国で特化した知識や資源が必要であり、国際交流の重要性を研究開発・分析の方向から見つめてもらいたいという大きな目的もある。 |
| 概要・内容 | 25日→薬化学教室、微生物教室 27日→天然物教室、分析化学教室 それぞれ先生方からの講義、研究室巡り、記念撮影を行った。 |
| 担当者 | 角田弥央 |
| まとめ | 経緯： SEPの企画内容の一つとして一昨年から行われ、今年も明治薬科大学の一部の研究室を見学させて頂くために、先生方に直接お声がけし、許可を得た後、一般参加者を募集した。ただし、一般参加者は明治薬科大学の生徒のみとし、また英語をある程度話すことの出来るスタッフが数名参加した。留学生には自己紹介を通し、先生方との交流を深めてもらい、見学中は何か疑問点があればその度質問していく形をとった。 |
| ①結論 | |
| ②経緯 | |
| ③アンケート結果、参加者の声 | 結論： 今年初めての”研究室見学”のプログラムとして、先生方のご厚意により4つの研究室での見学が可能となり、2日間に分けて行われた。 日本の薬科大学では有機化学に重点が置かれており、留学生にとっては理解しにくい分野だったようだ。また、生薬、漢方はヨーロッパでは珍しく大変驚いており、実際に先生と研究室配属の生徒がその場で作った液状の漢方を飲むなどの経験により、留学生の日本独特の処方薬に興味を示していた。 このように、研究室見学を通して、日本における薬学の学習内容や独特の分野に薬学生の目線で見てもらい、留学生の理解が深まったことが今回の収穫であった。また、私たち日本人もこのような機会を頂いたことで、今後の学習の意欲が増し、知識も増えたので、素晴らしい体験となった。 |
| ④開催して学んだこと | 参加者の声： 留学生：日本の素晴らしい設備に驚いた。有機化学の分野は疎いので、もっと詳しく勉強するべきではないのか。 日本人：もっと英語を話せれば、相違点などを留学生に尋ね、相互理解が深まったと思うので、今後英語をがんばりたいなど |
| ④今後の展望 | 開催して学んだこと 一部の研究室では通訳が必要となったので、薬学英単語の学習がもっと必要だと思った。先生方との自前連絡によって、スムーズに行うことができたので、自前の進行確認が大切だと認識できた。ただ、先生方の講義内容はこちらから指定せず自由に行って頂いたため、各研究室の面白みが出て良かったと思った。 今後の展望： 更に留学生が先生の研究内容を理解するために、英語の能力を高めることが第一優先である。また、日本の薬学生がどのようなことを学んで薬剤師になっていくのかという観点も、詳しく伝えることの出来るものにしていきたい。 |

報告書
【APPS】

国際交流委員会 委員長 明治薬科大学 4年 西岡 明子

| | |
|-------|---|
| 企画名 | APPS(Asia Pacific Pharmaceutical Symposium) |
| 日時 | 8月22日～28日 |
| 場所 | KL (Malaysia) |
| 参加人数 | 日本人 24人 |
| 概要・内容 | <p>【APPS 概要】</p> <p>IPSPF(国際薬学生連盟)のAPRO(アジア太平洋支部)主催の、APPS(アジア太平洋渋谷区学生シンポジウム)が8月22日～28日までマレーシアのクアラルンプールで開催されました。今回は、アジア全体の国から200人以上の薬学生が参加しました。日本からは、12大学から計24名が参加しました。APPSには、大きく分けて4つのプログラムが含まれています。Regional meeting、Symposium、Workshop、Public Health Campaignの4つです。</p> <p>Regional meetingでは、各国の代表が参加して今年一年のAPROの幹部の活動レポートを承認したり、次のAPROの幹部の選挙を行ったりしました。選挙を通して強く感じたことは、英語圏の国の積極性です。APROにはオーストラリア、ニュージーランドのオセアニアの国が含まれています。今回、選挙の立候補はそれらの国からが多く、全員が自分のビジョンを持っているように感じました。来年度のAPROでは、英語を母国語とする国が中心となってくる分、英語を母国語としない国もその自分たちの意見を言っていないといけないと感じました。また、来年度のAPROで活動中心として行う活動を話し合いました。将来薬剤師となる薬学生にとって欠かせないPCE/CSE(服薬指導)が来年度のAPROの活動の中心として取り上げられることが決まりました。日本薬学生連盟では現在PCE/CSEを行うことが困難な分、他国がどのようにこのプログラムを行っていくのか、情報をもらいたいと思っています。Symposiumは3つの講演を聞きました。</p> <p>一つ目は、Building Trust, Transcending Teamwork through Technologyで、特に信頼を得ることの大切さの話。主にチーム医療でどのように医師を始め、他職の薬剤師の職能を認知してもらえるかについてでした。</p> <p>残念ながら、医師は患者を治療するといった意味で自分の仕事を取られる懸念をしてしまうため、我々薬剤師を良く思っていない人が多いと言われています。しかし、医療ミスはとてつもなく多く、パーセンテージを航空機に換算すると、4日に1機は墜落している計算になるそうです。中には、2日に1機という国もあるそうです。また、医師は薬の専門家ではないせいか、マレーシアでは1日あたり、50,000もの処方箋にミスがあるとのことでした。</p> <p>患者は医師を信頼するから病院に行き、客は何か欲しかったらコンビニに行きます。別にこれは医学部に行かなくても分かることであり、そもそもコンビニ学部なるものは存在しないし、そういう意味でのコンビニの専門家はいません。では、どうして患者は病院、客はコンビニへ行くか？それは信頼関係があるからです。</p> <p>信頼とはお互いから学ぶことであるため、まずは、信頼される状態を作らなければなりません。</p> <p>①自分自身や自分の知識を信用すること ②他人を信用すること ③準備万全でいること</p> <p>以上の3点を踏まえ、他人が先にやるのを待たず、自ら進んで始める。</p> <p>我々のことを良く思っていない人がいたとしても、我々は薬の知識を通じ、患者から学び、患者に伝えることができるよう、訓練されているため、薬剤師という職業に誇りを持つことが大切であり、凄まじく輝いた未来は自分次第という内容でした。</p> <p>二つ目は、Personalized Medicine: Role of Pharmacists、将来の薬剤師の展望として遺伝子工学の技術と、薬剤師の情報提供についてのお話でした。</p> <p>現在医療は高度化するとともに、様々な倫理的問題が生じています。将来、薬剤師は的確なアドバイスが出来るような要約力、判断力、責任感などが求められる、とはなされていました。</p> <p>遺伝子工学の技術では、テーラーメイド医療の実現と、個別医療の可能性について詳しく知ることができました。テーラーメイド医療により、より効果的で副作用の少ない薬の服用が可能になり、また、疾患の予防にも努めることができます。世界的に見ても個別医療のための研究は進んでおり、マレーシアでも約40時間もあれば遺伝子解析ができるようです。しかし、医療システムは個々の医療現場で異なるので、治療を受ける際は、どのような治療方法を望むのか・その価格などを考え、選択することが大切とのことでした。また、遺伝子解析の結果が絶対ではなく、遺伝子情報の喫煙・飲酒・ストレス・社会的環境・食生活などが密接にかかわりあい発症にいたるので、発症に至らないよう普段の生活への心がけも大切です。個々の遺伝情報の管理・より低価格での診断実現が今後の課題でした。</p> <p>三つ目は、Leadership among Pharmacy Students: Way Forward to Sustain Excellence Product of Pharmacists in Healthcare System</p> <p>Symposium1と2で必要と言われた能力に加え、時代の進歩についていけないと、薬剤師は不要になることを強調されました。質問し、答えを追求し、変えて行くこと、そして、得られた知識は、されに掘り下げた部分まで理解し、活用することによって有効にすることも重要と仰っていました。薬学部に通ったという学歴は、薬を扱うためのVisaとのみ考えてはなりません。それに加えて必要なのは、決断力、タイムマネージメント、自分がやっていることを理解すること、責任感、個々の権限の拡大、そして、怒り過ぎないことと可能なことを話すことでした。</p> <p>Public Health Campaign</p> <p>今回のPublic Health Campaignは、No Tobaccoということで、市街に出て禁煙を呼びかけるキャンペーンを行いました。前日の夜に、現在のマレーシア、さらに世界の喫煙状況についての勉強会を受け、いくつか禁煙を呼びかけるビデオを見ました。実際に口腔癌・喉頭癌になってしまった喫煙者からのメッセージはとてつもなく痛々しく、タバコの怖さを実感しました。その後、グループごとに分かれて禁煙を呼びかけるためのボードや、市民の方に配るメッセージカードの作成を行いました。</p> |

キャンペーンでは、前日に作成したものを持って市街で“No to Tobacco”と声をあげて禁煙を呼びかけました。また、禁煙に対するボードにサインをもらう活動、実際に落ちている吸殻を集める活動も行いました。実際にキャンペーンを行っていて驚いたのは、キャンペーンに市民の方が積極的に参加してくださったことです。日本でこのようなキャンペーンを行った場合、白い目で見られることもあると思いますが、これは国民性の違いなのでしょう。また、これらのキャンペーンと同時進行に、ショッピングモールで禁煙を呼びかけるダンスを行ったり、禁煙を呼びかけるプロモーションビデオを作ったりしました。様々な角度から禁煙を呼びかけるキャンペーンのつくりで、マレーシアのスタッフの方が当日までによく準備をしてくださったと感謝の気持ちでいっぱいです。

Workshop

ハラール製剤について：

マレーシアの多くの方がイスラム教であり、口にすることは必ずハラールでなくてはなりません。しかし、現在の医薬品の一部がノンハラール医薬品であるということが分かりました。その代表的な例がインスリンです。インスリンは打たなければ命に関わるため特別に許されているが、他にも豚由来の成分を使っているなど使用できないものがある。今後、イスラム教徒の人口が増えていく分(インド・インドネシアの人口が増えているため)ハラール製剤に注目が集まると感じました。

(その他 Workshop に関しましては、WS レポートを参照)

1 日だけ、勉強会がなくマレーシアを参加者みんなで観光する日がありました。Pharmazing Race という日で、ウォークラリーのようにマレーシアの有名な場所にグループごと訪れ、そこでタスクをこなしていきました。途中スクールにも見舞われて色々な目にもあったようですが、グループごとにゴールにたどり着いた頃には結束もかたまり、グループ全体で仲良くなっていたように感じられます。それぞれのグループには日本人は 1 人か 2 人しかいないので、他の国の薬学生ととても仲良くなれ、参加者さんからの評判もとてもよかったです。

APPS では勉強会のあとには、他の国のメンバーとの親睦を深めるための様々なパーティーが行われました。

その代表的なパーティーが International Night です。このパーティーでは、各国の伝統的な衣装に身を包んで踊りを披露したり、有名なお菓子を食べ合ったりしました。また、今年はパフォーマンスが competition として行われていました。日本は、伝統的な花笠音頭と、モダンカルチャーの代表であるにじやりばんばんを踊り、見事一位に輝きました。

最後の夜である、Gala Night でこの表彰が行われ、日本人全員でステージに上がりました。とても感動的で思わず泣きそうでした。また、この Gala Night は、APPS での最後の夜でもあり、参加者みんなにとっても今まで一週間一緒に勉強や遊びを共にしてきた仲間とお別れでした。グループごとに写真をとったり、親しくなった友人と別れを惜しんだりしていました。

参加者さんの感想選抜

一般参加者感想文抜粋

・APPS とは、一言で表すと、世界中の未来の薬剤師の絆を固める一週間でした。国が違うということで遠くを感じる友人も、今日は薬学生、明日は薬剤師という意味で意思は一緒で、想いには国境はないことに気づかされました。

今回強く感じたのは、経験は誰でも出来るが、しかし、実践は限られた人にしか出来ない、ということでした。目的を持たずに留学した人は皆口を揃えて「世界の見方が変わった」「視野が広がった」などと言います。日本はモノカルチャー社会であるため、井の中の蛙大海が知った感覚のようであるため、当たり前には思えません。従って、お金さえ払えば誰でも経験値を上げることは可能です。しかし、実践出来るのは、しっかり準備をした人のみです。結果を出せなかったとしても、悔いは残ります。悔いは一般的に残したくないものではありませんが、これ以上成長しなくても良いといった満足感では終わらず、今まで見つけられなかったもしくは目を背けていた課題を見つけれられた証拠でもあります。昨年の APPS では経験値のみ上げた人が多いように感じましたが、今回は能動的に自ら挑戦する参加者が多かったため、全員次へのステップを踏むには何をすれば良いか、自分なりの答えを出しているのを耳にする度に自分も前向きに彼女たちのように何か新しいもしくは困難なことに挑戦したくな。

・今回の目標であった日本の医療や制度を伝えるという点に関しては、課題が残ったものの可能な範囲で伝えられたと思います。実際に伝えようとしてみることで、自分がまだ日本の医療について知らないことがあるということが自覚でき、これからも日本の医療、薬学について知り、考え、意見が言えるようにできることが必要であると感じました。

同じ思いをもつ学生が世界中から集まり、医療について考え、お互いに高めあっていることは本当に素晴らしいと感じました。今回の経験を自分が将来やりたいことを見つけ、実現していくための糧とし、できた繋がりを大事にし、常にグローバルな視点からも医療や物事を考えられるようになりたいと強く思います。

・「視野」や「世界観」が広がるのは、得てして、新しい考え方やものの見方、意見に触れた時である。今回私が今回の APPS 参加ならびに PST 参加やその後のアジア周遊にて一番心に刻まれたのは、わたしにとっては新鮮であった、その地で出会う人々の「生きかた」に触れたことであった。

「土着」という言葉がある。辞書的には、「その土地に長く住み着いていること。その土地にすみつくこと。根付くこと。」(weblio 辞書より)となっている。日本は非常に土着的な民族であることもあり、考え方や物の見方が閉鎖的になりがちである。周りに流されて盲目的になり、価値観も周りの人々に左右されやすい環境があることは多くの人が身をもって体験しているはずだ。そんな日本人である私が世界の人々とふれあい、その人から、信じているものごと、最近一番気になること、将来の夢、生涯設計、家族のこと、勉強していること、その他いろいろなものを吸収する中で、が私の凝り固まった考え方を気持ちが良いほどに見事に解きほぐしていつてくれるのを感じた。これまで日本の居心地のよい温室の中で育ててきた考え方から解放されるような気分であった。

日本人は、新しいものの見方に触れる機会に恵まれない。その機会は是非自身でつかみに外の世界に羽ばたいていくべきだ。しかし、ここであえていいたいのは、昨今の英会話教室や受験指導の回し者の目線での発言では決してないことをここで明らかにしておきたい。「英語は必須です！！」というのは、英語の試験のスコアや留学の経験などでその人が評価されるという伝統があるからであり、また、「英語は受験の要！！」なのは、単に日本人は英語が苦手だからである。別に、日本で生まれた以上、英語を無理に学ぼうとするのではないのか。土地に根ざし、強力に発展を遂げ、多彩な表現を可能にする「日本語」こそ我が日本文化の集大成であり、すべての日本文化の起源ともなりうるものとする学説を私は支持するし、日本に入り浸りその豊かさを感じる生活は大変有意義なものである。日本人に英語を強いるようなことはナンセンスである。語学習得は、コミュニケーションツールを学ぶこと。やりたいと思った人が楽しくやればよい。そして、それを用いて多くの人と触れ合ったときの喜びと感動は、やはりそれを経験した人にしかわからない。

| | |
|----|--|
| | <p>・今回が初めての海外での学会参加だった。英語でのコミュニケーションは、言いたいことがうまく伝えられず、また聞いた内容も100%の理解はできず、非常にもどかしかった。会話の内容を深めるにはそれなりの英語力を身に付けていないと難しいことを痛感した。</p> <p>開催国がマレーシアということで、イスラム文化を体験できたこと、ハラールについて考える機会を得られたことが大きな収穫の一つに挙げられる。日本でハラール認証の食品を目にすることはほとんどないし、恐らく多くの日本人はイスラム教についてあまり詳しくないが、最近では日本でもムスリムを見かけることが多くなったように感じる。加えて各種メーカーがアジア市場への参入を拡大する中、日本の製薬企業もインドネシアなどに向けてハラール認証製品を開発している。ムスリムへの正しい理解は日本において今後益々重要になるだろう。</p> |
| 感想 | <p>私にとって APPS に参加するのは 2 回目となりました。昨年の APPS は日本で開催され、私は当日スタッフとしてグループリーダーを任せました。なので、今回の APPS は初めて一般参加として参加しました。</p> <p>まず、一番驚かされたのは現地のマレーシアの APPS 準備の素晴らしさです。どの開催されたパーティーも素晴らしく、ご飯もどれも美味しかったです。泊まったホテルもマレーシアの 5 ツ星ホテルでしたが、マレーシアの物価だからここまでクオリティが保てたのでは無いかと思いました。マレーシアは、開催 1 年前から APPS の準備を本格的に始めたようですが、本当に 1 年で作ったとは思えない質の高さだったと思います。本当にありがとうございました。</p> <p>今回、私は日本薬学生連盟の代表である OD として APPS に参加し、各国の OD が参加する RM(Regional Meeting)に参加しました。この RM では、IPSPF(国際薬学生連盟)の APRO(アジア太平洋支部)の役員がこの一年間の活動レポートの報告を聴いたり、これからの APRO についての話し合いが行われたりしました。昨年度の APRO の代表が日本薬学生連盟を 6 月に訪問してくれたのですが、その際のことをレポートに書いていてくれて報告してくれました。日本での活動がこうやって海外に発信されていくのだと嬉しく感じました。</p> <p>RM の一番のメインは、次期 APRO の役員選挙でした。今回の選挙にはニュージーランド、オーストラリアの英語圏からの立候補がとて多くて、彼らの本気のディスカッションにとて圧倒されました。英語が話せる分有利なのはもちろん、話の運び方、相手の意見に対する言い返し方、どれをとて私たちが英語を喋らない国のメンバーを上回っていたと感じました。オーストラリア人同士の白熱した議論は聞いていてとて面白かったです。最終的に、今年度の APRO の役員は半分以上は英語圏のメンバーに決まりましたが、これにより私たちが英語を喋らない国のメンバーもどんでん意見を言っていけないと思わされました。英語圏のメンバーは英語をしゃべれる分、さらに APRO の活動を発展させていってくれると、思います。しかし、私たちがアジアの国を歩いていく形での発展は本当の意味での発展ではないと思います。これからの APRO の運営が、ほかのアジアの国の薬学生と一緒に作っていくことが出来るように役員のみなさんに期待しています。</p> <p>また、RM に参加してて各国の OD とそれぞれの国で薬学生が取り組んでいる活動をお互いにシェアしたり、各国の薬剤師について話をしたりする機会もあり、とて充実していました。各国の OD が参加している分、海外の中でも特に活動的である気のあるメンバーが多く私にとって今後自分の活動を行っていくモチベーションのひとつになりました。特に、今回の Public health campaign に関連して禁煙のイベントに関する話をしました。オーストラリアでは、授業自体でも禁煙に関して薬剤師として将来の禁煙指導のために授業が組まれていたり、ニュージーランドでは法律自体が厳しくタバコを国としても減らしていこうとしているのが伺えたりしました。一方でインドネシアでは、禁煙の取り組みがまだまだされていず、これから薬学生にもそういった知識が必要になってくると話してくれました。さらに、インドネシアでは多少島に寄るところもありますが、薬剤師自体が一般の市民の方から信頼がされていない現実があり、まずは、薬剤師についてわかってもらうところから始まるという話もしてくれました。インドネシアでは体調を崩すとまず、霊媒師や占い師を頼る風習が未だに残っているようです。このように、各国の違いが見られたことも含め、RM に参加して本当に良かったと感じています。</p> <p>私は、国際薬学生連盟が主催する世界会議にも参加をしたのですが、世界会議と比べると APPS の方が、一般参加者さんが楽しんでる様子が見受けられました。まず、APPS は世界会議とちがいグループがあって、グループごとに活動する場面があります。そのため、他の国の方と交流しやすい面が確実にあるのだと思いました。また、世界会議では欧米や北欧のメンバーの会話になかなかアジアのメンバーが入っていけないのだということを感じました。世界会議で参加した GA(General Assembly)では、アジア人からの意見がでることは本当に少なく、ほとんどが欧米・北欧メンバーで話が進んで行きました。また、普段の Workshop や Party でもアジア人はアジア人同士で固まっているように感じます。欧米・北欧の人たちは自分たちからぶつかるような人でなければ、相手にしてくれません。アジア人の積極性の必要性を感じました。</p> <p>私は一年間の留学を通して完全に英語だけの生活をしてきました。そのおかげもあり、言語の壁はほとんどなく APPS も世界会議も過ごすことができました。しかし、やはり自分の専門分野を持っている今、ただ単に言語をしゃべれるだけでは意味がありません。いかに自分の日本の団体のことがわかるか、どれだけ今の日本の薬剤師について知っているかという知識の大切さを感じます。また、知識を持っているだけでなくそれに対して自分はどう思うのかという意見をしっかり持っていなければ更に深い話はできません。これから学習していくためのモチベーションにつながりました。</p> <p>今回 APPS に参加してくれた後輩たちがこの経験をこれからどのように活かしていくのか、とて楽しみです。一人ひとり、英語ができなかった悔しさ、知識の足りなかった悔しさなどを感じていることと思います。その悔しさをバネに次につなげて行ってくれたら嬉しいです。APPS は最終地点ではなく、今後につながるための一つの中継地点でしかありません。さらにこれからの活動の幅を広げる一つのきっかけでありますように。</p> |

報告書

【交換留学プログラム 聖マリアンナ医科大学病院 薬剤部見学】

薬学教育委員会 委員長 慶應義塾大学 3年 飯塚 千亜希

| | |
|----------|---|
| 企画名 | 聖マリアンナ医科大学病院 薬剤部見学 |
| 開催日時 | 2014年8月29日(金) |
| 開催場所 | 聖マリアンナ医科大学病院 薬剤部 |
| 参加人数 | 6名 |
| 開催目的 | 日本の病院薬剤師の業務を知ること。 |
| 概要 | <p>国際薬学生連盟が公式に行っている交換留学プログラムにより、日本薬学生連盟が受け入れを行なった交換留学生4人と日本人薬学生2人が見学を行ないました。交換留学生は日本の薬剤部にある機器やシステム、日本の病院薬剤師の働き方を知り、自国と比較しながら学びを深めました。</p> <p>最初の上塚先生のプレゼンテーションから、日本の病院薬剤師についての基本的な理解を深め、ケースプレゼンテーションでは日本の病院薬剤師の研鑽の姿勢に感銘を受けていました。薬剤部見学では、自国と異なる点、同じ点が多く見つけることができ、学びを深めていました。最後のディスカッションでは、それぞれの国の事情を話しつつ意見交換をすることができ、とても楽しく有意義な時間を過ごしていました。</p> <p>日本人薬学生も病院薬剤師の働き方を知り、先生方の研鑽の姿を拝見し、自分たちの将来を考える良い機会となりました。とくにディスカッションでは、多岐な視点で病院薬剤師を考えることができ、大変勉強になりました。</p> |
| 当日スケジュール | <p>Schedule:</p> <p>10:30 - 10:40 Meet with Director of Pharmacy (Dr. Masuhara)</p> <p>10:40 - 12:00 Role of Hospital Pharmacists in Japan (Dr. Uezuka)</p> <p>12:00 - 13:00 Lunch</p> <p>13:00 - 13:30 Case Presentation (Dr. Maeda)</p> <p>13:30 - 14:00 Tour of Department of Pharmacy (Ms. Kobayashi)</p> <p>14:00 - 15:00 Topic Discussion (Dr. Maeda)</p> <p>15:00 - 15:10 Wrap-up (Dr. Maeda)</p> |
| 感想 | <p>Ng Zhi Yung (P3 at University Science Malaysia) From the hospital visit, I think it's a good exposure, because I never had any experience before. I get to see roughly different pharmacy departments in Japan hospital particularly St. Marriane hospital. Among the most notable dept is the drug information dept as well as the dispensing dept. I can't compare it with Malaysia hospital setting, but nevertheless it's a good experience. However, I hope that for the next aps Japan SEP, during the hospital visit, can try to have the experience of ward rounding with the pharmacist on duty and to inpatient as well as outpatient department.</p> <p>Pedro Ribeiro (P4 at University of Coimbra) I thought the hospitals pharmaceutical department seemed to work really well, although I didn't feel like using traditional Chinese medicine together with pharmaceuticals was a very good idea, Since there are not many studies of the effects of both together... So instead of risking the patient's condition I think it would be more logical to refrain from using those at least until evidence of safety was available. The staff was really nice and approachable as well, which made the tour a lot more "casual"</p> <p>Shinta (P3 at Universitas Gadjah mada) I think they have a very good system and the staff are very friendly and introduce the pharmacy department very well to us, The thing that I like the most is the conference among pharmacists that they held every week to discuss patient cases. And then even though they have the barcode system that may be possible to reduce mistake make by pharmacist when dispensing they also have another pharmacist to do the last check of the medication before distributing it to the patient to make sure that there will be no mistake. It's very inspiring.</p> <p>飯塚千亜希(慶應義塾大学3年) 今回の見学を通して、薬剤師にとって生涯研鑽がどれほど重要なことであるか、ということを知りました。貴院の薬剤部には、諸外国で研鑽を積み、それを還元しようとなさっている薬剤師がたくさんいらっしゃり、薬剤部全体の力を一丸となって高めようとしている様子はとても魅力的にうりました。多くの薬学生が求めている薬剤師のロールモデルはここにあると感じました。より良い Pharmaceutical Care とは何か、日々の学部生活を送っているだけではそれを考える機会もありません。しかしその基礎となる薬学という学問を習っている今、先生方の様子を拝見し、考えに触れることが出来たということは私にとって大変貴重な経験でした。基礎となる薬学の知識をさらに深め、再び先生方とディスカッションをする機会を頂戴出来れば幸いです。</p> <p>斎藤侘奈(東邦大学1年) 私自身が一年生で、病院薬剤師についてあまり知識がない状態でしたので、今回このような機会に関わってとても勉強になりました。上塚様の説明では、「患者さんが全てを全員に話しているとは限らない」という視点から、医療従事者間での患者さんに関する情報共有の重要性の説明があり、前田様のプレゼンでは、難病の患者さんのカルテを用いて薬剤や治療方針などを薬剤師全員で共有していて、まさに情報共有を具体的に実行している様子を知ることが出来ました。印象に残っているのは、デスクの横の書棚に数多くの英字薬学書が並んでいて、それを当たり前のように常日頃から用いているということです。分からないことは直ぐに調べるという姿勢の大切さや、「生涯学習」という言葉を再認識しました。また、英語力の重要性を感じました。抵抗無く英字の書物に手を伸ばせることや、そつなく英文を読解することは、今の薬学教育において、全ての薬剤師が得られるスキルではないと思います。個人の努力が大きく影響して得られるスキルだと思います。数年後、私も英語を自分の武器として活躍できるように、スキルアップに努めたいと思います。</p> |

報告書
【名古屋観光】

交換留学委員会 岐阜薬科大学 6年 長島 袖依

| | |
|----------------|---|
| 企画名 | 名古屋観光 |
| 日時 | 2014年8月31日 |
| 場所 | 名古屋市内(名古屋城、徳川園、にっぽんど真ん中祭り) |
| 参加人数 | 10名(留学生3名、スタッフ5名、一般参加者2名) |
| 目的・背景 | 日本人参加者との交流や観光地の見学を通して、日本の文化や歴史を楽しみながら学んでもらうために企画した。 |
| 概要・内容 | 名古屋城、徳川園を見学後、にっぽんど真ん中祭りに参加した。 |
| 担当者 | 長島袖依、山本理香子 |
| まとめ | <p>①留学生は日本文化に興味が高く、城や庭園の観光に満足しているようだった。疑問に思った部分は日本人参加者に積極的に質問しており、留学生と参加者の良い交流の機会になった。</p> <p>②経緯 普段目にしていて私達にとってはなんの変哲のないものでも留学生にとっては意外なものだったりと新鮮な部分が多かったように感じる。</p> <p>③アンケート結果、参加者の声 ②留学生に楽しみながら日本の文化や歴史を学んでほしいと思ったこと、また観光という機会を活かし、自然な形で各国の話をしたり、自身の英語能力の向上に繋げたりしてほしいと思い企画した。</p> <p>④開催して学んだこと ③観光地について英語で説明したり、おしゃべりしたり、祭りで一緒に踊ることで留学生と交流することが出来た。(一般参加者)</p> <p>④今後の展望 ④留学生は日本文化への興味が強く、想像以上に観光に時間がかかった。そのため臨機応変に対応できるプランをたてておく必要があると感じた。また、今回は全員で観光したが、留学生の希望が異なれば別々で観光するのもよいと思う。その方が人数は少なくなり、留学生と参加者が交流しやすいという利点もあるが、留学生の希望を聞きながら観光する上で、ある程度英語ができる日本人スタッフが各グループに一人は必要だと感じた。</p> |
| ①結論 | |
| ②経緯 | |
| ③アンケート結果、参加者の声 | |
| ④開催して学んだこと | |
| ④今後の展望 | |

2014年9月21日

報告書
【東海 SEP farewell party】

交換留学委員会 谷崎 明華
交換留学委員会 吉島 夕貴

| | |
|----------------|---|
| 企画名 | 東海 SEP farewell party |
| 日時 | 2014年9月1日 |
| 場所 | 名古屋市立大学滝子キャンパス内 |
| 参加人数 | |
| 目的・背景 | 留学生との最後の交流である farewell party により、 |
| 概要・内容 | うちわ作り、ビンゴ大会 |
| 担当者 | 谷崎明華 吉島夕貴 |
| まとめ | 2014年度東海 SEPに参加した留学生を送るために farewell party を開催した.farewell party では参加者が浴衣や甚平、道着などの日本文化を象徴する衣服で参加し、折り紙や筆ペン等を使ったうちわ作りやビンゴゲームを行った.当日はスタッフだけでなく |
| ①結論 | 多くの一般参加者が来場し、留学生や参加者が英語で会話し、各国の衣服を見せ合い、ビンゴゲームは名古屋名物や日本文化等の景品により盛況し、笑顔にあふれ、充実した時間であった. |
| ②経緯 | 今回 farewell party の企画担当を通じ、スタッフ間で連携し物事を進める必要性、留学生の目線で考えた企画、また準備における計画性、多くの参加者を得るための広報の重要性を学んだ.今回初めて東海地区で留学生受け入れをし、スタッフ間での情報伝達ミス、準備不足など反省すべき事があった. |
| ③アンケート結果、参加者の声 | 次回の受け入れでは、今回の反省点を共有し、より留学生、参加者、スタッフが交流出来るような余裕のある時間配分、スタッフ配置を考えなければならない.farewell party で日本文化を感じてもらう為に自身の国を象徴する衣服を身につけてもらった事やうちわ作りは交流のきっかけを築く事に繋がったのではないかと感じた.一般参加者の中にも東海 SEP 中の企画をきっかけに薬連、国際交流に興味を持つ東海の薬学生が多いことを知った.よって、次回受け入れではさらに多くのスタッフを集め、様々な意見を取り入れることで、より良い国際交流になるのではないかと考える. |
| ④開催して学んだこと | |
| ④今後の展望 | |

報告書
【Farewell Party】

交換留学委員会 日本大学 4年 小川 千尋

| | |
|----------------|--|
| 企画名 | Farewell Party |
| 日時 | 9月1日 18時30分～21時30分 |
| 場所 | GOBLIN.目黒店 |
| 参加人数 | 35人 |
| 目的・背景 | 留学生を送別会としてパーティーを開催した。今までの思い出を振り返りながら、修了証明書授与式を行うことが主な目的であるが、またそのパーティーで初めて薬学生連盟のイベントに参加する方や、加入者と、パーティーを通すことによって交流を深めることも、もう一つの目的である。 |
| 概要・内容 | 17:45 Farewell Party 準備開始 18:30 Farewell Party 受付開始 18:40～18:45 乾杯の挨拶 18:45～19:20 Free time 20:00～20:30 ビンゴ大会 20:30～21:10 Free time 21:10～21:20 スライドショー 21:20～21:30 Certificates 21:30 集合写真撮影 21:35～21:55 片づけ 22:00 撤収 |
| 担当者 | 小川千尋 |
| まとめ | 経緯： 留学生を送別会を行うとともに、SEP のコアスタッフの夏休みの活動や薬学生連盟に興味を持ってくれた方と仲良くなることを前提としていたので、Welcome Party とは異なり、沢山の方に自由参加という形式で参加してもらい、ビンゴゲームや Free time を交えることによって楽しんでもらうように計画した。またスライドショーは留学生と過ごした夏休みを振り返ってもらうこととして行った。 |
| ①結論 | |
| ②経緯 | |
| ③アンケート結果、参加者の声 | 結論： 留学生も参加者もスタッフも最後の時間を惜むように過ごしていたのがとても印象的だった。この 3 週間過ごしてきた時間を振り返りながら、最後の楽しい時間を過ごすことも出来た。また SEP 期間には参加出来なかった参加者も積極的に留学生と話す姿が見られたり、日本人同士でも新たな繋がりが生まれたりしていた。 |
| ④開催して学んだこと | また Certification の授与等の時間を設けることで、SEP のメとしての正式な部分もビンゴ等を使って交流することも出来て両方の面でこのパーティーを企画して良かったと思う。 |
| ④今後の展望 | 参加者の声： 留学生から⇒とても楽しかった。ありがとう。 またぜひ日本に来てみんなと再会したいです。 日本人から⇒勉強も出来たし、お酒を踏まえた交流が出来てとても楽しかった。スライドを使って SEP の振り返りをしているみんながとても楽しそうにしていたのがとても印象的でした。 |
| | 開催して学んだこと： 今までの SEP を振り返る機会として、SEP の最後を締めるという意味でもこのパーティーの重要性を学ぶことが出来た。交流するだけでなく、行事としてしっかりとした部分も持たなくてはいけなく、しっかりする部分と楽しむ部分の兼ね合いの難しさを感じた。準備に関しては時間に追われてしまった部分が多かったため、当日には余裕を持ち、スタッフももっと楽しめるような企画になるようにしていきたい。 |
| | 今後の展望： これまでのパーティーを元にもっと多くの方に参加してもらえるように、広報や準備に更に力を入れて、更に良いパーティーを築いていきたい。 |

報告書
【夏期 SEP】

交換留学委員会 委員長 昭和薬科大学 5年 佐方 一生

| | |
|---|---|
| 企画名 | 夏期 SEP |
| 日時 | 2014年8月12日～9月2日 |
| 場所 | 関東(東京・千葉・神奈川)東海(名古屋)九州(福岡) |
| 参加人数 | 日本人参加者 関東 71名(うちスタッフ13名)東海 30名(うちスタッフ18名)九州 19名(うちスタッフ11名) 計120名(うちスタッフ42名) 留学生参加者全8ヶ国9名 【内訳】 アメリカ1名(女)インドネシア1名(女)スペイン 1名(女)台湾 1名(女)チェコ1名(女)ポーランド1名(男)ポルトガル1名(男)マレーシア2名(男1女1) 【名簿】 関東 5名 Elena Collado(スペイン)Lucie Brunclikova(チェコ)Ng Zhi Yung(マレーシア)Pedro Ribeiro(ポルトガル)Shinta(インドネシア)東海、九州 4名 Chang Ching-Yuan(台湾)Wei San Cynthia Ngu(マレーシア)Raisa Mia U.Pangilinan(アメリカ)Czerniewicz Michał(ポーランド) |
| 目的・背景 | 交換留学を通して海外の薬学生に日本の薬学、医療、文化等を知ってもらい、また留学生との交流を通じて海外の医療や国のことを学ぶために実施する。 |
| 概要・内容 | 病院見学・薬局見学・ドラッグストア見学・研究室見学・Welcome Party・Farewell Party・国際交流委員会合同イベント・公衆衛生委員会合同イベント・薬学教育委員会合同イベント・地域連携委員会合同イベント・学術委員会合同イベント |
| 担当者 | 全体責任者:佐方一生 関東責任者:根本菜奈香 東海責任者:古澤香菜 九州責任者:平野真梨 |
| 当日スケジュール | 関東 1日目 入国2日目 Welcome Party3日目 横浜観光4日目 Free Day5日目 鎌倉観光6日目 Free Day7日目 国際交流委員会合同イベント8日目 薬学教育委員会合同イベント9日目 学術委員会合同イベント10日目 Free Day 11日目 お台場観光12日目 公衆衛生委員会合同イベント13日目 Free Day14日目 大学見学(明治薬科大学)15日目 薬局見学(明治薬科大学薬局) 16日目 研究室見学(明治薬科大学)17日目 Free Day18日目 病院見学(聖マリアンナ医科大学病院)19日目 Free Day20日目 東京ディズニーシー観光 21日目 Farewell Party22日目 帰国日 東海・九州 1日目 入国2日目 Welcome Party3日目 福岡観光4日目 病院見学(九州医療センター)5日目 Free Day 6日目 Free Day7日目 福岡観光8日目 薬局見学(タカラ薬局)9日目 大学見学(福岡大学)10日目 九州から東海への移動日 11日目 薬局見学(スギヤマ薬局)12日目 公衆衛生委員会合同イベント13日目 地域連携委員会合同イベント14日目 地域連携委員会合同イベント15日目 卸見学(メディセオ) 16日目 薬学教育委員会合同イベント17日目 Free Day18日目 野球観戦19日目 Free Day20日目 名古屋観光 21日目 Farewell Party22日目 帰国日 |
| まとめ ①結論 ②経緯 ③アンケート結果、参加者の声 ④開催して学んだこと ④今後の展望 | 今年度は初めての3週間という期間での SEP、また東海での初めての SEP 等様々なことにチャレンジを試みた SEP でした。例年予定が過密だった SEP を Free Day を設けたことにより、内容に余裕をもって実施することも出来ました。 また今年度は全ての委員会との合同イベントを行うことで、留学生と交流する機会だけでなく、海外の薬学について学ぶ機会も多く設けることが出来ました。8 カ国の留学生に参加してもらったことが出来たので、その分多くの国についての知識を得られました。他国の医療事情、薬剤師としての仕事や制度の違い、また経済状況からその国の流行や日本の認知度まで本当に幅広いことを教わり、また日本人も留学生に日本のことを存分に伝えることが出来たように思います。留学生と触れ合いながら日本を見つめ直すことで、日本の良さを再認識すると共に、日本人である私達にも理解出来ていない日本に関する知識がたくさんあるように感じられました。海外のことを学ぶからこそ、日本の良さにも気づき、更に日本についても関心が芽生える。そのようなとても素晴らしい成長を今回の参加者、特にスタッフには体験してもらえたように感じます。 日本の SEP は国際的には短い SEP ですが、持ち前のおもてなし精神と観光から見学まで幅広い内容を組み込んでいることから、多くの留学生からも満足の声を頂くことが出来ました。宿泊形式をホームステイにしたことと、期間を伸ばしたことも要因にありますが、今年度のスケジュールの組み方や、スタッフと一般参加者の相手に伝えようとする姿勢の強さから、今まで以上に留学生と深く友情を交わせたように感じられました。 しかし一方で SEP は未だに成長中の企画です。今回の SEP でも多くの反省点、改善点が見つかりました。SEP はこれからも回数を重ねるごとに成長していきます。今後も留学生、スタッフ、参加者全ての方に満足していただけるような SEP を築いていきますのでどうぞご期待ください。 |

報告書
【国際系交流会 in 東海】

国際交流委員会 名古屋市立大学 1年 齋藤 泰輝

| | |
|---|--|
| 企画名 | 国際系交流会 in 東海 |
| 日時 | 2014年9月28日 |
| 場所 | 名城サテライト |
| 参加人数 | 20人 |
| 目的・背景 | これまで、東海には国際交流委員会のメンバーがおらず、交際交流員とは何か東海にはよくわからないものでした。そのため今回は、APSの国際的な活動を報告し、東海に国際交流委員会の活動を広めるために、このイベントを企画しました。 |
| 概要・内容 | ・国際交流委員会: APPS・世界会議の報告 ・交換留学委員会: 交換留学の報告 ・英会話 WS: 東海メンバー中心にイベントを行っていただきました。 |
| 担当者 | 西岡明子 秤屋隼世 松岡史華 西海敬太 北村愛理 赤川真理 橋本京平 齋藤泰輝 Takahiro Chugun |
| まとめ ①結論 ②経緯 ③アンケート結果、参加者の声 ④開催して学んだこと ④今後の展望 | <p>①イベントの主催は難しい。良い経験になりました。東海に国際交流委員会を広めることが出来たかは疑問。英会話イベントはレベルを上げたほうが良い。プレゼンなどの発表の合間に英会話イベントのような、完全に聴講型のもので参加型の企画を織り交ぜると良い。</p> <p>②東海で国際交流委員会を広めていきたいということで、英会話イベントを織り交ぜながら、世界会議や APPS、留学などの話をすることになりました。</p> <p>③アンケートはとっていません。参加者の声としては、英会話イベントと留学系の発表の両方を含むイベントだったので、このイベントはなんだったのかという意見を外国人の参加者から聞きました。日本の参加者、特に委員会外部の方からは、英語があまり出来なくて楽しめなかったと聞きました。英会話イベントでもあったのに、英語を使うことが億劫になるような事態を招いてしまって悲しい結果となりました。</p> <p>⇒これに関しましては、 どこの地区でもどのレベルのイベントを開催するかで毎回頭を悩ませています。</p> <p>④外国人の参加者を呼んだことで、ディスカッション系のイベントは上手くいきました。これからも外国人を誘って、ディスカッションを楽しみたいです。参加者からは、英語がキツイと言われたが、これ以上内容を簡単にするとただのなれ合いになってしまいます。今回のディスカッション等も外国人がいなければ勝手に日本語で話してしまうような雰囲気が出来上がってしまったかもしれません。英語、もちろん英会話もある程度独学で学習、習得可能です。日本薬学生連盟の枠を広めるために、募集の告知に「とても簡単なので英語が話せなくても大丈夫です」とか、あまり万人向けにするのではなく、薬連メンバーの世界会議に向けて英会話能力を高めなくてはいけない人や英語力を高めたい人向けに、レベルの低すぎない英会話イベントを開いていくべきだと思います。きっと国際交流委員会に英語が苦手な人は、薬連に入るにしても他の委員会でしょうし、英語がある程度出来る人にとっては、簡単な英会話なんて物足りないでしょう。また、国際系の報告会と英会話イベントのコラボになりましたが、英会話イベントを挟んで行った甲斐もあって、退屈することはあまりなかったと思います。そのため英会話イベントを発表の合間に挟んでいくことを他のイベントでも導入すると、発表をより集中して聞いてもらえるかと思っています。</p> |

報告書

【第 1 回緩和医療・在宅医療勉強会】

薬学教育委員会 東京薬科大学 2 年 北澤 裕矢

| | |
|-----------------|---|
| 企画名 | 第一回緩和医療・在宅医療勉強会 |
| 日時 | 9 月 28 日 9:00~ |
| 場所 | デニーズ 渋谷店 |
| 参加人数 | 4 名 |
| 目的・背景 | 2025 年には約 5 人に 1 人は 75 歳以上であると言われる現在の超高齢社会において、緩和医療・在宅医療もさらに行っていく必要があると考えます。 それらについて知り、考えることによって、将来このような問題について緩和医療・在宅医療という側面から、私たちは何ができるか、何をしなければならないのか考えるきっかけにしてほしいという思いから企画しました。 |
| 概要・内容 | 薬学教育委員会内で、緩和医療・在宅医療に興味のあるメンバーが集まり、緩和医療・在宅医療に対する思いや知っていることを顔合わせも兼ねて共有しました。 共有した際に、現段階で緩和医療・在宅医療についてわからない点や疑問点をあげておき、次回の勉強会につなげていきました。 |
| 担当者 | 東京薬科大学 2 年 北澤裕矢 |
| まとめ | 今回顔合わせも兼ねて、それぞれが緩和医療・在宅医療に対する思いやどんなことを知りたいのか共有したことにより、今後緩和医療・在宅医療について知り、考えていくにあたってのモチベーションアップにつながりました。 |
| ① 結論 | |
| ② 経緯 | それぞれの緩和医療・在宅医療での興味のある分野も違ったので、次回の勉強会では、さまざまな側面から緩和医療・在宅医療についての知識や考えを深められると考えています。 |
| ③ アンケート結果、参加者の声 | 次回の勉強会では、今回共有した際に出た気になった点やわからない点について各自調べてきたものを共有したいと考えています。 |
| ④ 開催して学んだこと | |
| ④ 今後の展望 | |

報告書
【国際交流会 in 関西】

国際交流委員会 委員長 明治薬科大学 4年 西岡 明子

| | |
|----------------|---|
| 企画名 | 国際交流会 |
| 日時 | 2014年10月5日 |
| 場所 | 大阪 リンクルカフェ |
| 参加人数 | 35人 |
| 目的・背景 | 今まで、夏に行われてきた国際活動の報告は関東でしか行われていませんでした。他の地区でも報告会を開催して欲しいという声 が昨年度から上がってきたため、関東・東海・関西の3地区での報告会の開催を決めました。 例年、世界会議・APPSの申し込みは関東が多くて関西・東海からは少ないため来年以降の人数の拡大を目指しました。 |
| 概要・内容 | 国際交流委員会：世界会議・APPSの報告 交換留学委員会：関東・東海で行われたin comingの報告 冬に関西で行われるSEPの告知 Workshop 今回の報告に対して自分たちの興味を持った分野を出し合い、 どのような企画を今後作っていくことができるのかディスカッションを行いました。 |
| 担当者 | 西岡明子、三谷太郎、茅 薇蕾、競和佳、橋本京平、赤田貴大、吉田舞衣、小池雄悟 |
| まとめ | 【経緯】 関東でしか行われていなかった国際系の報告会を関西でも行うことで、関西の国際系をより活性化させることを目指して企画が 始まりました。また、APPS や世界会議に参加したメンバー、そして交換留学に参加したメンバーも今回の報告会で自分の経験をプレ ゼンテーションする機会が得られて夏の大きなイベントを自分の中に落とし込むことを目指して開催を決意しました。 関西全体としても大きなイベントが今年行われていなかったため関西メンバーが沢山集まれる良い機会となりました。 |
| ①結論 | 【結論】 当日は、思った以上に多くの参加者さんがイベントに参加してくれました。関西で今年大きなイベントが薬連として特に開かれてい なかったため、関西を活性化するひとつのきっかけとなってくれたら嬉しいです。国際系の報告を聞いて来年 APPS に参加したいと 言ってくれる子や、交換留学に興味を持ってくれる子も沢山出てきたのでよかったです。 |
| ②経緯 | 【開催して学んだこと】 APPS・世界会議参加者さん、また交換留学を行ったメンバーから実際に自分の体験を語ることができる場が与えられたのは本当 にいい経験だったというコメントをもらいました。自分の貴重な体験をしっかりと振り返ることができる時間だったと思うのでとても有意 義なものであったと思います。ただ、国際交流委員長としてなるべく多くのメンバーに発表してもらいたいと考えた分、一人ひとりのプ レゼンテーションが少し延びてしまって参加者さんにとっては少し長すぎるプレゼンだったように感じます。 会全体としては、関西などの他の地方でのイベント開催の重要性を身にしみて痛感しました。なかなか大きなイベントが開かれない 分、とても多くのメンバーが集まってくれて本当に良かったと思っています。この勢いを年會に続けて行って欲しいと思っています。 |
| ③アンケート結果、参加者の声 | 【今後の展望】 来年は、例年以上に関西から APPS や世界会議の参加者さんが出てきてくれることや、冬の交換留学イベントにも関西のメンバー が積極的に参加してくれるように願っています。 また、来年以降も関西のメンバーの手で国際系報告会を開催してくれたら嬉しいと考えています。 関西のさらなる飛躍の第一歩となるイベントであってくれたらと思います。 |
| ④開催して学んだこと | |
| ④今後の展望 | |

報告書

【日本薬剤師会学術大会 薬学生による公開シンポジウム
あなたにとって地域連携とは？ ～学生ができること・学生だからこそできること～】

学術委員会 委員長 北里大学 5年 日高 玲於

| | |
|----------------|--|
| 企画名 | 日本薬剤師会学術大会 薬学生による公開シンポジウム |
| 日時 | 10月12日(日)14:15～17:45 |
| 場所 | 山形ビッグウイング |
| 参加人数 | 70名 |
| 目的・背景 | 患者の「生活」を考えたときには、患者の「住まい」「生活支援」「介護」「医療」「予防」を中心とした地域の連携が重要となる。今現在行われている薬局の現場での活動を聴き、学生視点で学生たちができる地域連携を考え、現場に出る前の学生のうちに何を学び取る必要があるかを明らかにし、それぞれが決意することを目的とする。 |
| 概要・内容 | <p>初めに日本薬学生連盟会長阿部誠也より開会のあいさつを行い、その後あかね薬局篠田太郎先生より基調講演を行っていただきました。山形県鶴岡市の現状についてお話しいただいてから、在宅医療・介護に向かい医療が変化しているお話を、地域包括ケアを含めてお話して頂きました。現場でどのような地域医療が行われているのかを実際の事例を用いて話し、他職種の高戸の実際に行っている交流会なども写真を見ながら解説していただきました。</p> <p>その後、合計で6つの班を作り「地域連携をするために、顔が見える関係を作るためのアクションプラン」をテーマにディスカッションに入りました。各班でプロダクトを作成後、社会人の方も含め質疑応答の時間をとりました。社会人の方から学生に向けての質問もあり、学生と堺人の双方向の質疑応答が活発に行われていました。</p> <p>質疑応答が終わった後に、『学生の今、地域連携をするために、今日から明日から自分が何をするか？』についてそれぞれ紙に書き、全員が班の中で言葉に発し宣言しました。</p> <p>最後に、ソーシャルワーカーの立場から、東北公益文科大学准教授、鎌田剛先生から、薬剤師の立場から日新薬品株式会社学術情報部学術特命室長、東海林徹先生から統括の言葉を頂き、日高委員長より閉会の挨拶を行い、最後に、学生社会人含め参加者一同で円を作り、一本締めをして、心を一つにして、散会しました。</p> |
| 担当者 | <p>〈日本薬学生連盟〉日高玲於、阿部誠也、仁宮勇人、中島大理、上島実佳子、飯塚千亜希、池田裕、赤川真理、大道恒輝、磯崎泰成、南絢子、北澤裕矢、小菅道洋、齋藤伶奈</p> <p>〈講師の先生〉篠田太郎</p> <p>〈山形県薬剤師会・日本薬剤師会の先生方〉齋藤由美子、佐藤茂樹、林誠一郎</p> |
| まとめ | ①篠田太郎先生の基調講演では山形の薬局で実際に行われている活動を実際に行っている方から聞くことができ、今現場で行われている最先端が知れ、とても将来の参考になったことと思います。東北の学生を含め学生だけで50名程が参加し、和気あいあいとWSを行うことができました。完成したプロダクトではアクションプランとして〇町で行われている勉強会に参加し、他職種の方と交流を持つ、〇薬剤師がどのようなことを行っているかを教える勉強会を開催する、〇運動会など、町のイベントに参加する、〇他職種の方と親睦を深めるために一緒に食事に行く、といった意見があったことが報告されました。東北山形の地でこれからの地域医療について学び、議論し、それぞれが宣言したことは、今日、明日の医療につながり、未来の医療を作る一歩になったことと思います。 |
| ①結論 | |
| ②経緯 | |
| ③アンケート結果、参加者の声 | |
| ④開催して学んだこと | ②今回の開催では、2025年、団塊の世代が75歳以上を迎えるに伴って急激に少子高齢化が進み、今世界史上、類を見ない超高齢化社会になると予想されています。今後は、医療が地域に移る必要があり、患者の生活を考えたときに、「住まい」「生活支援」「介護」「医療」「予防」を中心とした地域の連携が求められています。その中で、薬局の立ち位置はどのようなものなのか現場の薬局で地域連携に勤しむ薬剤師にご講演頂きグループディスカッションを通しながら、学生ができること・学生だからこそできることを考えていきたいと思ったため。 |
| ④今後の展望 | ③参加者からは、東北の薬学生となかなか話す機会が少ないのでとても貴重な機会だった。との声や、このような場所に初めてきたが、とても面白かった。などの声があった。先生方からは学生がこのようなことを行っていることは素晴らしいことだし、出てきた案が社会人と同じような内容で、驚いた。などの言葉もいただきました。 |
| | ④自分は初めてこのような大きな機会を担当させていただきました。社会人の方と共に内容を作っていくにあたって、ご迷惑をかけることも多々ありました。先生方が学生からの意見を大切にくださり、学生でもこのようなイベントをできたということがとても素晴らしいことだと感じています。大きく感じたことは学生が日々感じている疑問は社会人の方々も感じており、その疑問は学生から発信することも一つの解決策になるということです。学生だからできないということは全くなく、様々な方と協力しながら、大きなことを成し遂げることができたことがとても大きな学びであったと思います。 |

報告書
【第 2 回緩和医療・在宅医療勉強会】

薬学教育委員会 東京薬科大学 2 年 北澤 裕矢

| | |
|-----------------|---|
| 企画名 | 第 2 回緩和医療・在宅医療勉強会 |
| 日時 | 10 月 25 日 13:00~ |
| 場所 | ジョナサン 新宿御苑前店 |
| 参加人数 | 5 名 |
| 目的・背景 | 2025 年には約 5 人に 1 人は 75 歳以上であると言われる現在の超高齢社会において、緩和医療・在宅医療もさらに行っていく必要があると考えます。 それらについて知り、考えることによって、将来このような問題について緩和医療・在宅医療という側面から、私たちは何が出来るか、何をしなければならないのか考えるきっかけにしてほしいという思いから企画しました。 |
| 概要・内容 | 第 1 回の勉強会でそれぞれが緩和医療・在宅医療について知っていたことを共有した際に、知らなかった点や気になった点について調べてきた内容を共有しました。 各自、文献を調べた内容や、講演会に参加して得た内容を共有しました。 緩和医療・在宅医療の概念や薬剤師の基本的な業務など各自調べてきた内容も異なり、さまざまな側面から緩和医療・在宅医療を考えることが出来ました。 共有した上で、緩和医療・在宅医療において薬剤師は何が出来るのか、出来ているのか、現在問題としてあげられそうなことは何かなど、自分達で考え、意見交換を行いました。 |
| 担当者 | 東京薬科大学 2 年 北澤裕矢 |
| まとめ | 各自調べてきたものは皆違ったため、それらをまとめると様々な側面から緩和医療・在宅医療について学ぶことが出来ました。 |
| ① 結論 | 今回の勉強会で緩和医療・在宅医療に対する知識がまとまりましたが、やはりそれらが明確なものであるのか曖昧な点もありました。しかし、知識が増えたことにより疑問点や考えられる問題点についてもさらに活発に話し合いが出来ました。 |
| ② 経緯 | |
| ③ アンケート結果、参加者の声 | 次回は、今回の勉強会であがったグレーゾーンな知識について、実際に緩和医療・在宅医療が行われている現場あるいはそれに関わる方のお話を聞くことにより明確にしたいと考えています。また、今回私達なりに考えた意見や疑問点をぶつける機会をつくり、さらに緩和医療・在宅医療について知識や考えを深めていきたいです。 |
| ④ 開催して学んだこと | |
| ④ 今後の展望 | |

報告書
【葉連祭】

国際交流委員会 委員長 明治薬科大学 4年 西岡 明子

| | |
|-----------------|--|
| 企画名 | 葉連祭 国際系の部 |
| 日時 | 11月1日 |
| 場所 | 賢者屋 |
| 参加人数 | 50名 |
| 目的・背景 | <p>今年は国際系報告会が、東海・関西・関東の三地区で行われました。昨年までは、関東でしか行われていなかったのに、東海・関西では新しい取り組みとなりました。一方、関東の国際系報告会を企画するのに当たって、通常とは違う取り組みをしたいと考えました。</p> <p>国際的な活動をしているメンバーの多くは、国内系のメンバーとの交流が無かったり、国内委員会の主催するイベントに参加したことが無かったりするのが現状だと思っています。しかし、APPS や世界会議に参加する際は、こういった国内系の委員会で取り組んでいる知識がとても必要になってくると私は考えました。そこで、ちょうど国際系に興味があるメンバーが沢山集まることのできる機会があるのであれば、同日に国内系のイベントも行うことが出来ないかと思い立ちました。</p> <p>また、国際系は秋に大きな報告会がある一方で、国内系にはそういった機会が無いので国内系にとっても良い機会になると考えました。</p> |
| 概要・内容 | <p>【国際系】 夏に開催された APPS・世界会議の報告会をまず行いました。合計 5 名の参加者さんが自分の体験や思いを伝えてくれました。APPS は特に多くの参加者さんが参加しているため、出来るだけ多くのメンバーにプレゼンをする機会を提供しようと、一人ひとりのプレゼン時間は 10 分で報告をしてもらいました。</p> <p>次に、日本国内で行われていた交換留学からもどのような活動が夏に行われたのか報告してもらいました。今年は、日本に 9 名の留学生、そのうち 5 名が関東にやってきました。交換留学委員会で 3 週間留学生と一緒にやってきた企画や、イベントの話も共有してもらいました。</p> <p>【ハロウィンパーティ】 国際系と国内系のイベントが終わった後は、夜にハロウィンパーティが行われました。ハロウィンでは、軽食とゲームが国際交流委員会で準備され、参加者さんは思い思いの仮装に身を包みました。</p> |
| 担当者 | <p>国際系報告 西岡明子、渋谷華鈴、小佐野香澄、秤屋隼世、長井雅子、西海敬太、渡邊 成晃、佐方一生、根本菜奈香</p> <p>ハロウィン 長井雅子、北村愛理、高木杏菜、田上孝平、松本崇徳</p> |
| まとめ | <p>【結論】 今回は、国内系のイベントが後にある関係で国際系のイベントは午前中から行いました。午前中なので人数があまり期待出来ないかと不安に思っていたのですが、人数は例年より集まっていたように感じました。しかし、例年よりも来年度 APPS などに参加したい、交換留学のイベントに参加したいと思っている参加者さんは比較的少なかったように感じました。国際系報告会としての広報が足りなかったかな、と反省しています。</p> <p>夜に行われたハロウィンパーティは、低コストで行えたこともあって、比較的多くのメンバーが参加してくれたように感じました。全員が思い思いの仮装をしていたのも盛り上がった一因だと思います。スタッフはすべて後輩に任せていたのですが、とても良い会にしてくれたと思います。</p> <p>【開催して学んだこと】 合同企画は、夏の交換留学でもそうだったと思いますが、どの委員会がどこの責任を持つのか、というのがとても難しいと感じました。今後、合同企画を行っていく場合は、色々話をつめていく必要があると考えています。</p> <p>【今後の展望】 来年以降は、東海・関西ではそれぞれの地域の国際的な活動を行っているメンバーが中心となって報告会を地域ごとに行ってもらえたら嬉しいです。関東の報告会は、今年度の良かった点、反省点を活かして更により良いイベントにしてくれたら良いと思っています。</p> |
| ① 結論 | |
| ② 経緯 | |
| ③ アンケート結果、参加者の声 | |
| ④ 開催して学んだこと | |
| ④ 今後の展望 | |

2014年 11月 20日

報告書
【薬連祭 国内系の部】

薬学教育委員会 委員長 慶應義塾大学 3年 飯塚 千亜希

| | |
|---|---|
| 企画名 | 薬連祭 国内系の部 |
| 日時 | 11月1日 |
| 場所 | 賢者屋 |
| 参加人数 | 50人 |
| 目的・背景 | <p>例年は国際系報告会だけでしたが、国際系委員会から声をかけていただき、日頃国際系活動を行なっている人たちに、ぜひ国内系委員会の活動の意義や楽しさを知ってほしいと思ったので、喜んで国内系委員会もイベントを同日に開催することにしました。</p> <p>薬学教育委員会・公衆衛生委員会・学術委員会の3つの委員会の活動内容、楽しさが伝わるような企画にしようと、テーマを「糖尿病」に設定しイベントを企画しました。</p> <p>また3委員長がつくるワークショップなので、後輩達にこういうワークショップもあるのだと驚きと楽しさを感じてもらえるような企画を考えました。</p> |
| 概要・内容 | <p>世界糖尿病デーが近かったということもあり、テーマを「糖尿病」と設定して、まずはマインドマップを使ってたくさん意見を班毎に出してもらいました。その中から気になる意見を選び、企画を1つ考えるというワークショップをやらしてもらいました。</p> |
| 担当者 | <p>薬学教育委員長 飯塚千亜希 公衆衛生委員長代理 細川希織 学術委員長 日高玲於</p> |
| まとめ ①結論 ②経緯 ③アンケート結果、参加者の声 ④開催して学んだこと ④今後の展望 | <p>3委員会のイベントに参加したことがない、薬学生連盟の企画に初めて参加した、という参加者がとても多く、参加者のみなさんからは、「こういったワークショップは初めてやった」、「こういうワークショップは楽しい」、「マインドマップは初めて知った」などの、驚きと喜びの声をたくさん聞くことができたので、この企画の目的は達成出来たと思います。班ごとに考えた企画もどれもよく考えられていて、とても面白かったです。もちろん、とても長時間のワークショップだったこと、またテーマにかなり幅があったことから、苦戦をしていた班も多かったです。みなさん反省点もちゃんと分かっているようだったので、この企画を通じて得た楽しさも良かった点も、反省点も、これからの機会に活かしてもらえたら良いなと思いました。</p> <p>これを機に、国際系と国内系、どちらの企画も楽しく、また大切であるということを感じてもらえたなら良かったと思います。</p> |

2014年 11月 23日

報告書
【世界糖尿病デーイベント@東京】

公衆衛生委員会 日本大学 4年 細川 希織

| | |
|----------------|---|
| 企画名 | 世界糖尿病デーイベント@東京 |
| 日時 | 11月14日 17:00~21:00 |
| 場所 | 東京タワー、東京駅 |
| 参加人数 | 23人 |
| 目的・背景 | 11月14日は世界糖尿病デーなので、それを知ってもらおうと同時に日頃考える機会の少ないであろう生活習慣について考えてもらう。チラシを配布して知識を深めてもらい、風船配布をして若年層にも興味をもってもらおう。 |
| 概要・内容 | 17:00~18:00 風船の準備、スタッフに内容説明 18:00~20:00 風船・チラシ配布、呼びかけ 20:00~ 東京駅にてブルーサークルで撮影 |
| 担当者 | 南絢子、細川希織 |
| まとめ | ①青い服で統一感を出すことによって視覚的に周囲の視線を集めることが出来た。 |
| ①結論 | ②チラシを用いることによって呼びかけだけでなく一緒に知識を深めて考える機会を設けることが出来た。 |
| ②経緯 | ③風船を用いることによって若年層に呼びかけやすくなり、社会人だけでなくカップルや子連れのご家族にも呼びかけることも出来た。 |
| ③アンケート結果、参加者の声 | ④ブルーサークルの撮影後、Facebookで写真をUPして呼びかけを行うことによって知人等にも広報することが出来た。 |
| ④開催して学んだこと | ⑤今後も継続して活動を行い、糖尿病を始めとする生活習慣病について少しでも地域の方に知識が深まり、意識してもらえたら幸いである。 |
| ④今後の展望 | |

報告書
【世界糖尿病デーイベント@名古屋】

公衆衛生委員会 名城大学 4年 原かをり

| | |
|----------------|--|
| 企画名 | 世界糖尿病デーイベント@名古屋 |
| 日時 | 11月14日 18:30~19:30 |
| 場所 | 名城公園駅、名古屋城周辺 |
| 参加人数 | 7人 |
| 目的・背景 | 11月14日は世界糖尿病デーということで、それに合わせて糖尿病の啓発活動をしたいと思い、企画した。昨年も同様に名古屋城をバックにブルーサークルを作成し、Facebookにてイベントの報告、啓発をしていたため今年もやりたいと思った。また、当日は東京、神戸などで同様のイベントが企画されていたため全国でブルーサークルができれば面白いと思ったためこのイベントを開催した。 |
| 概要・内容 | 糖尿病についての啓発のためのピラを名城公園駅周辺で、通行人に配布した。その後、ブルーにライトアップされた名古屋城を背景に参加者でブルーサークルを作り、写真を撮影しFacebookでの広報をした。 |
| 担当者 | 原かをり、塚本ゆり恵、伊藤佑奈 |
| まとめ | ①ピラの配布により、地域の一般のかたに世界糖尿病デーの広報ができたと感じた。また、ブルーサークルの写真をFacebookにより拡散したことで、多くの人に世界糖尿病デーを知ってもらうことができ、糖尿病について考えてもらう機会となったと思う。 |
| ①結論 | ②昨年も行った企画で、今年も同様なイベントをしたいと思い企画した。世界糖尿病デーを広く知ってもらうために、有効な方法として、Facebookが良いと思い活用した。 |
| ②経緯 | ③ピラ配りは初めてだったが楽しかった。11/14が世界糖尿病デーということを知らなかった。ブルーサークル作りは楽しかったので、来年もまた参加したいとの声をいただいた。 |
| ③アンケート結果、参加者の声 | ④世界糖尿病デーの認知度はまだ低く、身近な病気である「糖尿病」をもっと認知してもらうためにも、このようなイベントは意味があると感じた。このような機会を通して、病気について学んでもらうことも大切だと思った。 |
| ④開催して学んだこと | ⑤ピラ配りや写真による広報だけでなく、より詳しく糖尿病についての知識を学ぶための勉強会を開催したり、糖尿病に限らずさまざまな病気についての知識をつけていくための勉強会を開催したりしていきたいと思う。 |
| ④今後の展望 | |

報告書
【世界糖尿病デーイベント in 神戸】

公衆衛生委員会 姫路獨協大学 1年 長崎 真珠

| | |
|----------|--|
| 企画名 | 世界糖尿病デーイベント in 神戸 |
| 開催日時 | 2014.11.14(金) 19:30-21:00 |
| 開催場所 | <ピラ・ティッシュ配り> JR元町駅 <ブルーサークル> 神戸のポートタワー周辺 |
| 参加人数 | 18人(内、スタッフ2人) |
| 開催目的 | 糖尿病を世界に広め、且つ自分たちも糖尿病についての理解を深め次の糖尿病のイベントへつなげる。 |
| 企画内容 | <p>1. 糖尿病に関するチラシ、ポケットティッシュを配る</p> <p>2. ポートタワーをバックに参加者でブルーサークル(青い服を着て参加者手を繋ぎで円をつくる)を行いそれをSNSに載せることにより、世界の人達に糖尿病について知ってもらうきっかけをつくる-19:20 JR元町駅集合</p> <p>19:20 参加者の自己紹介、イベントの説明</p> <p>19:30 糖尿病を地域の方に呼びかけるチラシ、ポケットティッシュを配り糖尿病啓発を呼びかける</p> <p>20:20 ポートタワーに移動</p> <p>20:30 ポートタワーをバックに参加者でブルーサークル(青い服を着て参加者手を繋ぎで円をつくる)を行う</p> <p>21:00 解散</p> <p>※イベント中、ブルーTシャツを1枚1000円で販売</p> |
| 当日スケジュール | |
| 感想 | <p>チラシ、ポケットティッシュを配る経験をした参加者がおらず、はじめ何をどのように配ったり、呼びかけたりしたら良いのか分からずに、おどおどしてしまったりうまく配れなかったりしてしまいました。</p> <p>しかし次第に参加者の声も大きく、はっきりしてきて地域の方に興味を持って頂けたのか、受け取ってもらえることも増えていき、また糖尿病で悩んでいるご家族をお持ちの方からお声掛けを頂いたりすることもあり、こちらが糖尿病について認知を呼びかけるだけというかたちではなく、お互いが糖尿病について認知を深めるという内容のあるものになったと思います。</p> <p>最後に神戸ポートタワーに移り、国連や空を表す『ブルー』と団結を表す『輪』を取り入れたブルーサークルをつくり、今回のイベントは無事終了しました。</p> <p>イベント終了後、はじめて地域で公衆衛生の活動に参加なさった方に「良い経験になった」、「また参加したい」という声を頂きました。今回のイベントで、ほかの啓発活動に興味をもってもらうきっかけになることが出来たのではと感じ、嬉しかったです。</p> <p>今回のイベントで一番学ばせて頂いたのは団結の大切さです。</p> <p>いくつかの関西で行われた薬学生連盟のイベントに参加させてもらって姫路市、神戸市の薬学生の参加者が少ないと感じ、多くの学生に公衆衛生のイベントに興味を持ってもらうきっかけにしたいというのがあり、今回のイベントの開催場所をあえて人の集まりやすい大阪府や京都府ではなく兵庫県の神戸市にしました。しかし案の定、参加者が思うように集まらずスタッフ一同、随分苦戦したものです。それでもイベント当日を無事、参加者18人という体制のもとで行えたのは大学の講義でイベントの宣伝をさせていただいた先生、口伝えなどをくださった薬連の諸先輩、友人のおかげです。</p> <p>さらに公益社団法人日本糖尿病協会の方からのご協力、立ち止まってしまったときには薬連の諸先輩に色々なアドバイスがあり一歩一歩進んでいけました。</p> <p>スタッフだけでは今回のイベントを無事終えることは出来なかったと思います。関西糖尿病デー in 神戸に関わって頂いたすべての方に心からの感謝を申し上げさせていただきます。</p> <p>今回の糖尿病デーイベントが地域の方々はもちろんですが、医療系の学部である参加者の学生のみなさんにも糖尿病について考える機会になるものであったならば幸いです。</p> |

報告書
【薬剤師の国際化】

国際交流委員会 委員長 明治薬科大学 4年 西岡 明子

| | |
|--------|---|
| 企画名 | 薬剤師の国際化 |
| 日時 | 11月16日 |
| 場所 | 明治薬科大学 |
| 参加人数 | 50名 |
| 目的・背景 | <p>今年の APPS 参加者、国際交流委員会・交換留学委員会メンバーによく質問されるのが「将来英語をどうやって活かしていくのか?」「留学に行きたいのだけれど、どうしたらいいのか?」など私ですらまだ明確な答えを持っていない物ばかりで途方に控えていました。学生のあいだから答えを決めつける必要は無いと思ひ、色々な方の話を聞ける機会を提供出来たらいいな、と思っていました。そんな時、今まで私がこれからの道を考える上で色々お話を伺って来た先輩方に相談したところ、快く今回のイベントの開催に携わって頂けると言うことで開催を決めました。</p> |
| 概要・内容 | <p>前半は先生方のプレゼンを行いました。一人ひとりの先生の経歴と、薬学と海外経験またそれが現在につながっている面、最後に学生さんへのメッセージをプレゼンしていただきました。一人のプレゼンの持ち時間は 20 分で、10 分の質疑応答という構成で、すべての講演をあわせると、3時間という膨大な時間になってしまいましたが、先生方のプレゼンがとても上手であったという間の3時間となりました。先生方のプレゼンの後は、各先生の島に分かれてそれぞれの先生と少人数での質問タイムとしました。この形式にした理由としては、事前に参加者に参加フォームで今回のイベントの先生方に対する質問を受け付けたところ、多くの先生を呼んでいる分とても多種多様な質問があったため、少人数で自分の聞きたいことを先生からじっくり聞いてもらおうという意図がありました。参加者にも実際に先生方と色々なお話を聞いて本当に良かったという声をいただけて良かったです。</p> |
| 担当者 | <p>西岡明子、赤川真理、小間貴大、中郡貴大、高木杏菜、橋田ゆう子 講師の先生:後町陽子先生、大口さやか先生、高橋泉恵先生、上塚朋子先生、前田幹広先生、井原久美子先生</p> |
| まとめ | <p>【結論】今回はお呼びした講師の先生方も6名で、どの先生方もとても素晴らしい経験を持っていて参加者も非常に満足してくれたという印象が強いです。実際に先生方のお話を聞いてさらに、ワークショップなどを通して、自分の一日を通して思ったことをアウトプットする時間もとりかけたのですが、やはり6名もの講演者がいらっしやるとそういった時間は取れなかったのですが、その分一人ひとりのイベントが終わった後で何かしら自分の中で感じたものをまとめてくれたらうれしいと思います。</p> <p>【経緯】今回のイベントの開催に至った経緯は、日本薬学生連盟では国際活動が多く行われていますが、実際に海外や英語が好きで活動している学生の多くが、将来、今自分が活動していること、勉強している英語がどのように活かしていくことができるのか分からない、または、とりあえず留学に行こうかな?など、英語を使うのは海外に行かなければ使わないと思っているように感じました。そんな学生さん達に、将来の道の幅広さや、英語を勉強することへのモチベーションを伝えられるようなイベントを開きたいと思ひ、今回のイベントの開催に至りました。協力してくださった講師の先生方、本当にありがとうございました。</p> <p>【アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素晴らしいご講演をありがとうございました。自分が一番求めていた情報をすべて入手出来た気がします。 ・先生方の話を聞いて、行動を起こそうと思うようになりました。今まで他人をうらやんでばかりいたけれど、行動しなければその人たちに近づけないと気づきました。英語をスキルとして使えるように一日一日を大切に全力でがんばりたいと思います。 ・英語を活かす方法が今まで良く分からず、なんとなく勉強していましたが、先生方のプレゼンテーションを通して目指す点が少し決まったような気がしました。 ・これからは、色々なことにチャレンジし、色々な人と知り合っていこうと強く思いました。まずは行動してみようと思います。 ・これからの学生生活に活かして行きたいと思ひました。 ・自分の将来の選択の幅が広がり、また判断として使えるお話を聞いて良かったです。 ・自分のこれからのことを考える参考になりましたし、今の自分を変えていく点で大いに考えさせられました。実践していこうと思ひます。 ・今まで薬学分野で英語を活かす方法が良く分からず、英語を学ぶ意味に疑問を持つことも多々ありました。今年度 APPS に参加しても、やはりその意味について「?」な状態でした。この講演で様々な分野があることを実感出来ました。 ・自分の中で気持ちが固まったといいますが、変化がありました。 ・学生のうちに多くを経験すること、人とのつながりを大切にすることの重要性を感じました。今の自分を変える、受身にならないことは特に印象的なお言葉でした。 ・何をやりたいのか、英語をどう活かしていくのか困惑しているとき、ちょうどこの講演会を聴くチャンス頂きました。選択肢の幅が広がったのが大きかったです。日本は固定観念が大きく影響するため、なかなか自由が利きませんが、自分の意志があれば、何も怖いものはない、と勇気を頂きました。 <p>【開催して学んだこと】いつもは薬学生同士のイベントが多くてなかなか外部の先生にお話をいただけるような機会が少ない委員会ですが、やはり日本の中でも様々な薬剤師の方がいらっしやって、その中にはもちろん国際的に活動されている方がいる、ということもみんなに知っていただけただけでも価値があったように感じました。こういった外部の方から講演していただける機会は滅多に無い分みんなのモチベーションにもつながり、今後も大切にしていきたいと思ひました。今回講演してくださった講師の皆様、運営に携わってくれたスタッフのみんな、そして当日参加してくれた参加者のみなさんに感謝しています。ありがとうございました。</p> |
| ④今後の展望 | |

報告書

【Student Learning Experience Questionnaire の協力】

薬学教育委員会 委員長 慶應義塾大学 3年 飯塚 千亜希

| | |
|-----------------|--|
| 企画名 | Student Learning Experience Questionnaire の協力 |
| 日時 | 2014年度前半 |
| 場所 | |
| 参加人数 | |
| 目的・背景 | FIP 教育イニシアチブと IPSF(国際薬学生連盟)が行なった、全世界の薬学生対象の教育に関するアンケート「Student Learning Experience Questionnaire」(以下、SLEQ)に、APS-Japanとして協力をしました。 |
| 概要・内容 | <p>SLEQは全世界の薬学生を対象にした、教育の機会に関するアンケートになります。世界の各アソシエーションの Education Officerが入っているメーリスにこの依頼が来ましたので、日本の PEO(Pharmacy Education Officer)として協力をしました。</p> <p>アンケート結果は、日本では 262 人分しか集めることができませんでしたが、世界で第 5 位の回答数でした。この理由は、他国に比べて日本は薬学生の数が多いこと、また全ての国がこのアンケートを実施したわけではなかったことが挙げられると考えられます。</p> <p>このアンケート結果は、現在も FIP 教育イニシアチブと IPSF が結果をまとめており、今後の世界の薬学教育の水準に活かされていきます。</p> |
| 担当者 | 委員長 飯塚千亜希 |
| まとめ | このアンケートを日本で実施するにあたって、日本薬学生連盟が普段使っている広報媒体のみを利用してアンケートを行なった結果、あまり票数が集まりませんでした。またアンケート項目がとても多いアンケートであり、このアンケートを答えるメリットを PEO としてあまり伝えられなかったということも一因と考えられます。 |
| ① 結論 | |
| ② 経緯 | |
| ③ アンケート結果、参加者の声 | <p>またこのアンケートをするにあたり、大学側への協力要請も行なうべきであったと思います。アンケート期間があまり長くなかったので、依頼する時間がないと判断し、日本薬学生連盟独自で行ないましたが、今振り返ってみると要請をするべきであったと思います。</p> <p>このアンケートの結果は、1つの国に薬学生が何人いるかは関係なく、一票の扱いは全て同じです。つまり、日本の薬学生の意見が多く集まれば、日本の薬学生の数からいって、大きな影響を与えることが出来ました。</p> |
| ④ 開催して学んだこと | ですが、今回初めて PEO として IPSF のプロジェクトに正式に参加出来たことはとても良かったと思います。この PEO のつながりは、しっかりと後輩につないでいきたいと思っています。 |
| ④ 今後の展望 | |

報告書
【世界糖尿病デーポストイベント】

公衆衛生委員会 金城学院大学 4年 塚本 ゆり恵

| | |
|----------------|---|
| 企画名 | 世界糖尿病デー ポストイベント |
| 日時 | 2014年11月23日 13:00~17:00 |
| 場所 | 青空薬局下市場店 |
| 参加人数 | 9人(薬学生) 3人(薬剤師) |
| 目的・背景 | 糖尿病デーに合わせた、糖尿病を知ってもらうための薬学生を中心とした勉強会。薬局で行うことで、薬剤師の先生から直接ご指導していただき、体験をすることが出来る。 |
| 概要・内容 | 糖尿病や糖尿病治療薬についての説明、糖尿病患者さんの模擬処方箋を用いての調剤体験や服薬指導のロールプレイング。また、自己測定やセルフメディケーションについての説明とHbA1cの自己測定や血糖値の測定の体験。 |
| 担当者 | 塚本ゆり恵、原かをり |
| まとめ | ①結論 今回のイベントを通して、たくさんの種類の糖尿病治療薬があること、糖尿病の患者さんへの対応で気をつけること、それぞれの患者さんにあった対応が出来るようになるためにはもっと勉強が必要であることがわかった。自己測定はとても簡単に出来るが、まだ世間にはあまり知られていないので、これから広めていく活動を続けることが大事だということがわかった。薬剤師の先生方はみなさんそれぞれの考え方を持ち、薬剤師としての誇りを持って患者さんと接して、少しでも患者さんの力になりたいと思っているということが感じられた。 |
| ①結論 | |
| ②経緯 | |
| ③アンケート結果、参加者の声 | |
| ④開催して学んだこと | ②経緯 糖尿病デー当日は平日のためブルーサークルを作ることは出来ないので、別日に糖尿病イベントをやりたいということでこの企画を考えた。参加者に体験してもらえるようなもので、普通だとなかなか出来ないことを体験してもらいたいと思い、薬局で働いている父に相談したところ、薬局を使ってもいい許可と、治療薬についての説明や模擬処方箋を使ったロールプレイング、薬局においてある機械を使って HbA1c の自己測定などを行うことが出来るという返事をもらい、このイベントが開催できることになった。また父がこのイベントについて他の薬剤師の先生に話をしたところ、参加したいと言って下さったので、父を合わせ3人の薬剤師の先生に協力してもらうことになった。 |
| ④今後の展望 | ③アンケート、声 糖尿病について詳しく知れて楽しかった。実際に服薬指導をする場面をやらせていただいて、その難しさがわかった。2型糖尿病のもっと細かな種類を勉強して、どの薬を処方するのが適切なかを把握するのも大切だと思った。など、多くの参加者から、現場につなげるために勉強する必要があると感じたという声をいただいた。 |
| | ④学んだこと 教科書に書いてあることや授業で学んでいることが実際の薬局で使われているということの間近で見て体験することにより、学生のモチベーションが上がるということ、より一層記憶に残るということがわかった。 薬剤師の先生から直接お話を聞けるという機会が少ないため、学生は熱心に話を聞き、その中で自然と質問がでて、それについて答えてもらえるという流れがとても良かった。また、1人の先生からではなく、3人の先生の考えを一気に聞けるというのはとても貴重なことで学生にとって理解の幅が広がっていたように感じた。 |
| | ⑤今後の展望 今後もこのような、学生と薬剤師の交流の場になれるような体験型のイベントを開催していきたい。春日井市薬剤師会に協力していただき、来年度の健康フェスティバルに参加出来るように企画していきたい。 |

報告書
【世界エイズデー in NAGOYA 2014】

公衆衛生委員会 名城大学 6年 竹内 美緒

| | |
|----------|--|
| 企画名 | 世界エイズデー in NAGOYA 2014 |
| 開催日時 | 2014年12月1日(月) |
| 開催場所 | 名古屋栄 栄広場(三越北&周辺道路) |
| 参加人数 | 日本薬学生連盟:3人、その他参加者:125名 |
| 開催目的 | 世界で1日に4人以上の人がHIVに感染し、我が国でも感染者が増えているHIV/AIDSについて、市民の皆様にも少しでも関心を持って頂く。 |
| 企画内容 | <p>地元で活躍しているカルテットさんをお招きし、音楽パレードで盛り上げて、市民の皆様を集める。</p> <p>参加者には、HIV/AIDSに関するリーフレットやコンドームを配布し、それらについての正しい知識を身につけて頂く。</p> <p>実際にHIV/AIDSに関与している医療従事者の方やAIDSにより大切な人を失った方などのお話を聞き、HIV/AIDSについての情報を共有すると共に、皆でそれらについて考える時間を作る。</p> <p>パレードを通して市民の皆様には呼びかけることで、HIV/AIDSについて少しでも関心を持って頂く。</p> |
| 当日スケジュール | <p>18:00 オープニング</p> <p>18:05 音楽ライブ(アマアフリカジェンベ太鼓&カルテットによるライブ)</p> <p>19:00 レッドリボンパレード(大津通→若宮通り→久屋大通)</p> <p>20:00 エンディング</p> <p>20:30 終了</p> |
| 感想 | <p>今回のイベントでは、大学生の方から社会人の方が参加してくださいました。大学生の方は医療系の学生が多く、また、社会人の方は何かしらの形でHIV/AIDSに関わる活動をしている方が多かったです。栄の街は夕方にも関わらず、仕事帰りの社会人や学生で賑わっていました。音楽ライブでは、近くを歩いている方が足を止めて聴いてくださることで、人も集まり大いに盛り上がりました。ライブを聴いてくださった方やカルテットさんも交えて128名で栄の道路をプラカードや旗などを持ち、市民の皆様にもHIV/AIDSに関する呼びかけを行いました。警察の先導車に導かれ、100人あまりが歩いていたこともあり、道行く人がこちらに目を向け、写真を撮る学生の姿も見られました。拡声器を用いて、HIV/AIDSに関する呼びかけを行うことで、道行く人の耳に少しでもHIVやAIDSという言葉が残り、少しでもそれらについて考えるきっかけになっていたらいいと思います。エンディングでは、HIV/AIDSに関与している医療従事者の方から最新のHIV/AIDSに関する情報を教えて頂くと共に、AIDSにより大切な人を失った方などのお話を聞き、HIV/AIDSについて皆で考える時間を作りました。今回参加された方それぞれにそれぞれの思いがあり参加されたと思うのですが、このイベントで少しでも自分と向き合い、明日に一步踏み出す力に少しでもなれば幸いです。</p> <p>現在、日本ではHIVの感染は増加しています。HIVに感染していない人も、他人事とは思わず、HIVは誰にでも感染するリスクがあることを知り、少しでも関心を持ち、正しい知識をもってもらうことが大切であると感じました。そのためには、国全体でHIV/AIDSに関して取り組むことが重要であると考えます。</p> |

報告書
【心身障害児総合医療療育センター見学】

薬学教育委員会 委員長 慶應義塾大学 3年 飯塚 千亜希
薬学教育委員会 東京薬科大学 2年 北澤 裕矢
薬学教育委員会 東京薬科大学 2年 島田 翠

| | |
|-------|--|
| 企画名 | 心身障害児総合医療療育センター 見学 |
| 日時 | 2014年12月5日 |
| 場所 | 心身障害児総合医療療育センター |
| 参加人数 | 3人 |
| 目的・背景 | 心身障害児総合医療療育センターの薬剤師、海老原先生のご講演を聞き、障害者医療が日本においてはマイナーな分野であり多くの問題を抱えていること、そして薬剤師としてこれからやれることがたくさん領域であることがわかり、見学を通して、それを実際に学び感じたいと考えたから。 |
| 概要・内容 | 海老原先生より歴史、概要のご説明・センター内見学・海老原先生とのディスカッション |
| 担当者 | 飯塚千亜希、北澤裕矢、島田翠 |
| まとめ | <p>■結論</p> <p>①結論 「装具診」と呼ばれる、車いす等の装具の点検や買い替えなどを行なうために、病院内には多くの業者と患者さんがいた。約200床のセンターであるが薬剤師は4名であり、現状では病棟業務が行えていないが、病棟で薬剤師としての職能を発揮していくべき場面は多くあるようである。例えば、患者さんは自分の状態が説明出来ない場合が多いので、副作用が出ていないのか様子をチェックすること。患者さんは免疫力が低い場合が多いのにも関わらず長期入院が多いため、感染対策をしっかりすること。看護師等の他職種に薬の飲み方等を指導すること。「母子入院」という、障害児が家で生活するのに必要なスキルや知識を得るために母子が入院するシステムがあるが、そのときに薬の飲ませ方の練習のサポートをすること、などである。しかし、診療報酬の算定や他職種からの理解不足により、業務が行なえる体制にはなっていないという現状であるようである。だが、障害者医療に関わる薬剤師の研修会等も始めていて、これからは病棟業務にも積極的参加が出来るように変わっていくようである。また、私達学生がそのような意識を持って、この領域にチャレンジをしていくことが求められているとわかった。</p> <p>②経緯</p> <p>③アンケート結果、参加者の声</p> <p>④開催して学んだこと</p> <p>④今後の展望</p> <p>■参加者の声</p> <p>もともと臨床薬剤師に興味があったが、今回見てきた領域は今まで見てきた病院とは異なり、薬剤師として行なっていく必要のある業務がまだまだたくさんあると感じた。そのため、この領域での薬剤師としての可能性を広げて行けると感じ、この領域についての現状・問題等を理解し、薬学生として何が出来るそうか考えてみたいと思った。また、将来薬剤師として働く場の選択肢の1つとして考えてみたいと思った。(北澤)</p> <p>今日参加して、今の福祉分野の現状や問題点を知ることができ、貴重な話が聞くことが出来てよかった。この分野には、すべきこと・学ぶべきことが沢山あることを、見学を通して実感した。薬剤師しか分からないような知識を確実に身につけることや施設薬剤師についてさらに多くの人に知ってもらうように働きかけることなど、薬学生として出来ることをこれからやっていきたいと思った。(島田)</p> <p>薬剤師として職能を発揮出来る、発揮して行くべき領域であることがよくわかった。そのことをぜひ多くの薬学生にこれから伝えて行きたい、またこの領域で薬剤師が活躍できる環境を整えるために、薬剤師の介入効果をしっかり示していくということに、自分も研究という立場で何か貢献したいと思った。(飯塚)</p> <p>■展望</p> <p>今回、学んだことや、この領域における現状を全国の薬学生が集まる場である第16回日本薬学生連盟年会で多くの薬学生に伝えて行きたい。次回は、多職種の学生と見学に行き、意見交換をしたい。</p> |

報告書
【薬剤師とフィジカルアセスメント ～糖尿病編～】

九州支部 福岡大学 4年 福島 美里

| | |
|-----------------|--|
| 企画名 | 薬剤師とフィジカルアセスメント～糖尿病編～ |
| 日時 | 2015年2月15日 |
| 場所 | 九州大学病院キャンパス |
| 参加人数 | 12名 |
| 目的・背景 | <ul style="list-style-type: none"> ・前回のフィジカルアセスメントの学習に繋げて、糖尿病に対してどのようにフィジカルアセスメントを行っているのかを学ぶため。 ・糖尿病のWSスタッフが事前に自分の地域で糖尿病について知る機会を作るため。 ・日本薬学生連盟の九州メンバーを集めるため。 |
| 概要・内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病の病態に関する学習 ・糖尿病治療薬についての学習 ・処方例を用いて服薬指導を考えるロールプレイ ・薬剤師の先生からの評価・コメント ・質疑応答 |
| 担当者 | 公衆衛生委員長 名古屋市立大学 5年 渡辺 結美 九州支部長 崇城大学 5年 青木 雅史 福岡大学 4年 福島 美里 福岡大学 2年 竹重 文貴 |
| まとめ | 年会で糖尿病 WS を執り行うにあたり、WS スタッフが事前に糖尿病について考える機会を設け、WS の企画に繋げようという意向から企画いたしました。 |
| ① 結論 | 7 人の現役薬剤師の先生方から、糖尿病の病態・治療に関する知識だけでなく、糖尿病の患者さんとう向き合うのか、服薬指導の際どういう点に気を付けているのかななどを教えていただきました。服薬指導では、実際に薬剤師の方に薬剤師役・患者役を演じてもらい、参加者とともにどうすれば理想の服薬指導ができるのかを考えながらワークを進めることが出来ました。 |
| ② アンケート結果、参加者の声 | 低学年の参加者からは「少し難しかった」という声も聞かれましたが、高学年の参加者からは「貴重な体験になった」との声をいただきました。 |
| ③ 開催して学んだこと | 今回のイベントを行ったことで、糖尿病の病態や治療に関する知識を要する WS は、参加者の知識レベルが異なっている場合には非常に難しく、特に低学年の方には少しハードルが高いものであったと感じられました。この点を含め、今回のイベントで良かった点や改善すべき点を活かし、年会では、全学年が参加しやすく意見を出しやすい WS を企画したいと思います。 |
| ④ 今後の展望 | |